

平成11年度〔第11-K 2 4 6 1-01号〕
二級河川巴川(麻機遊水地)下水道関連特定治水施設
整備(総合治水)工事に伴う動植物実態調査業務委託

報 告 書

平成12年 3 月

静岡県静岡土木事務所
吉田測量設計株式会社

平成11年度〔第11-K2461-01号〕
二級河川巴川（麻機遊水地）下水道関連特定治水施設
整備（総合治水）工事に伴う動植物実態調査業務委託

報 告 書

平成12年3月

静岡県静岡土木事務所

吉田測量設計株式会社



第4工区の全景
平成12年1月4日撮影

はじめに

本報告書は麻機多目的遊水地（第4工区）の動植物実態調査をとりまとめたものである。

この工区は昭和49年に治水緑地として事業化され、本年の完成を目指して整備が進められている。事業化当初は巴川流域の治水安全度の向上を目標にしていたが、整備が進むにつれかつての湿地が蘇り、レッドデータブックに掲載されている多数の植物や鳥類が見られるなど、静岡県を代表する豊かな湿地が形成されつつある。この状況は県内外の専門家からも注目されている。

しかし、ここに生育、生息する植物、昆虫類、鳥類など動植物の実態はまだ把握されていない現状にある。そこで、各専門分野で各々行われていた調査記録を専門分野の代表者のご協力を得てとりまとめることにした。

ご協力を得た代表者は、静岡植物研究会会長 湯浅保雄氏、静岡昆虫同好会代表 高橋真弓氏、(財)日本野鳥の会静岡支部支部長 三宅隆氏、同支部普及指導部長 伴野正志氏の四氏である。

とりまとめ

- ・ 植物調査は、治水工事に併せて平成5年度から4回行われてきた調査の結果を一覧表と図にまとめた。また、併せて繁殖の著しいチクゴスズメノヒエとこの植物を生息場所とする水生動物調査も行った。
- ・ 昆虫類調査は、伴野正志氏から資料のご提供をいただき一覧表にまとめた。
- ・ 鳥類調査は、(財)日本野鳥の会静岡支部からご提供をいただいた。この資料（鳥類の目録を含む）は昭和58年から記録されているもので、これを一覧表にまとめた。

その結果、植物は52科210種、昆虫類は35科111種、鳥類は43科199種が確認された。

また、植物の目録作成は湯浅保雄氏、昆虫類は高橋真弓氏にご尽力をいただいた。

報告書の構成は実態調査を本編に、植物、昆虫類、鳥類の各目録は資料編とした。特に代表者には専門的な視点から今回の調査と遊水地の将来について、ご意見、ご希望をお寄せいただき、後記に掲載した。

代表者のご意見、ご希望

- ・ 今回の調査については、今後すべての動植物を対象とした調査を継続的に実施していく。調査のレベルは遊水地の環境が比較検討できるものであること。
- ・ 将来の遊水地については、環境づくりは専門家の知見を結集した自然生態系を目指す。また、自然環境教育実践の場としての活用とその拠点づくりやボランティア活動による維持管理体制づくりなど。

この調査によって貴重な資料がまとめられ、代表者のご提案によって遊水地の一つの方向性は概観されたと考えられるが、県下屈指の湿地が「すべての生きものにやさしい環境」として育つためには、さらに多くの方々の意見や希望を取り入れていく必要がある。

最後に大変ご多忙の折、調査にご協力をいただいた上記四氏に深謝申し上げます。

目 次

	頁
1. 趣旨	1
2. 調査対象区域	〃
3. 調査方法	2
(1) 植物調査	〃
(2) 昆虫類調査	〃
(3) 鳥類調査	〃
(4) 水生動物調査	〃
4. 作業フロー	3
5. 調査対象区域の整備推移	4
6. 調査のまとめ	7
(1) 植物調査	〃
(2) 昆虫類調査	2 3
(3) 鳥類調査	2 6
(4) 水生動物調査	3 2
7. オニバスとオオオニバス	4 3
(1) オニバス生育の経緯	〃
(2) オオオニバス生育の経緯	4 7
8. 後記	5 0
(1) 静岡植物研究会 会長 湯浅 保雄氏	〃
(2) 静岡昆虫同好会 代表 高橋 真弓氏	5 1
(3) (財)日本野鳥の会 静岡支部 支部長 三宅 隆氏	5 2
9. レッドデータブックカテゴリー (環境庁, 1997)	5 4

1. 趣旨

調査は第4工区を対象に行う。本工区は治水機能を確保するための整備が進められ、この整備によって多様な植物が生育し、数多くの水鳥が訪れ、トンボなどの昆虫類が見られるなど自然環境が形成されつつある。この状況は県内外の専門家からも注目されている。

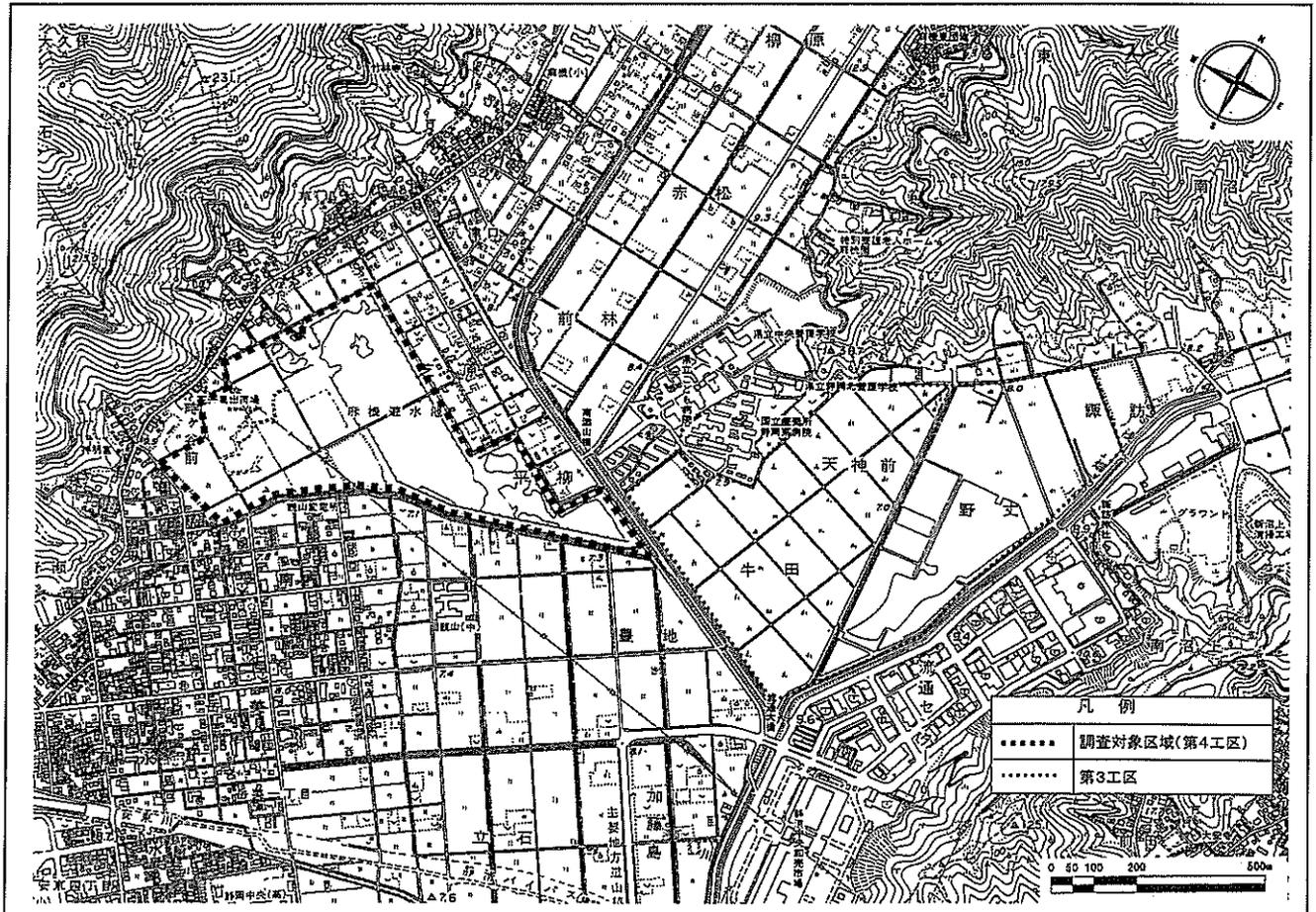
しかし、現在、植物や動物の実態は把握されていない。

このため、整備完了を控え、工区内で特に顕著な植物、水鳥をはじめ昆虫類及び水生動物を対象にした実態調査を行う。

2. 調査対象区域

調査対象区域は下図の第4工区の全域とする。

調査対象区域図



3. 調査方法

調査の方法は既存調査の資料収集を行い、補足調査として水生動物調査を実施する。

(1) 植物調査

平成5年度の第1回調査から10年度までに行われた4回の調査資料の収集を行う。

(2) 昆虫類調査

現在まで昆虫類の調査は行われていない。本調査は既存文献等から本工区に該当するものがあれば資料として収集する。

(3) 鳥類調査

本調査は、(財)日本野鳥の会静岡支部が観察会等を開催し、その中で記録されたものを資料として収集する。

(4) 水生動物調査

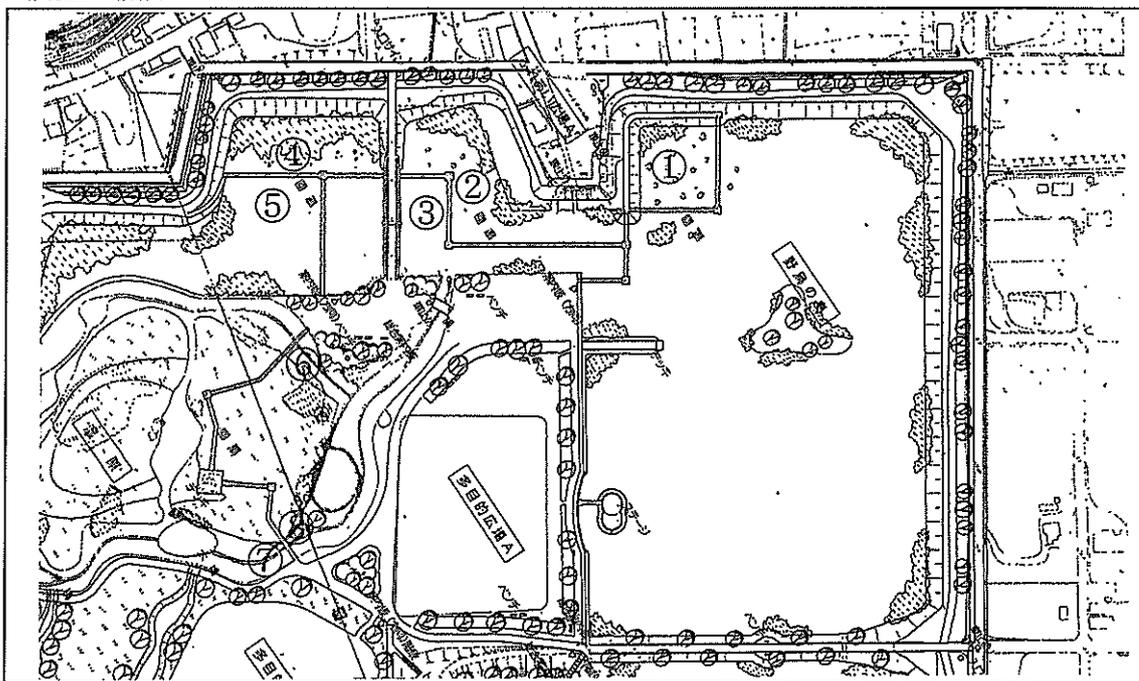
① 趣旨

本調査は動植物調査の補足調査として実施する。本工区に直接関わりのある地区住民から「水辺に生育するチクゴスズメノヒエが繁茂し、蚊やウンカが発生し、夏は窓も開けられない。」との話がある。また、湿原地区（平成8・9年度に第3工区より表土を移転した場所）では、タコノアシ、ヒメガマ等の貴重な植物も生育できない状況にある。

そこで、チクゴスズメノヒエと水生動物との関わりを知るため、住宅に接近している場所を中心に、現地を概観し8ポイントを選び調査することとする。

調査は昆虫類や魚類がどれ位生息しているかを確認する程度で、同定までは行わない。

② 調査の場所



③ 調査の方法

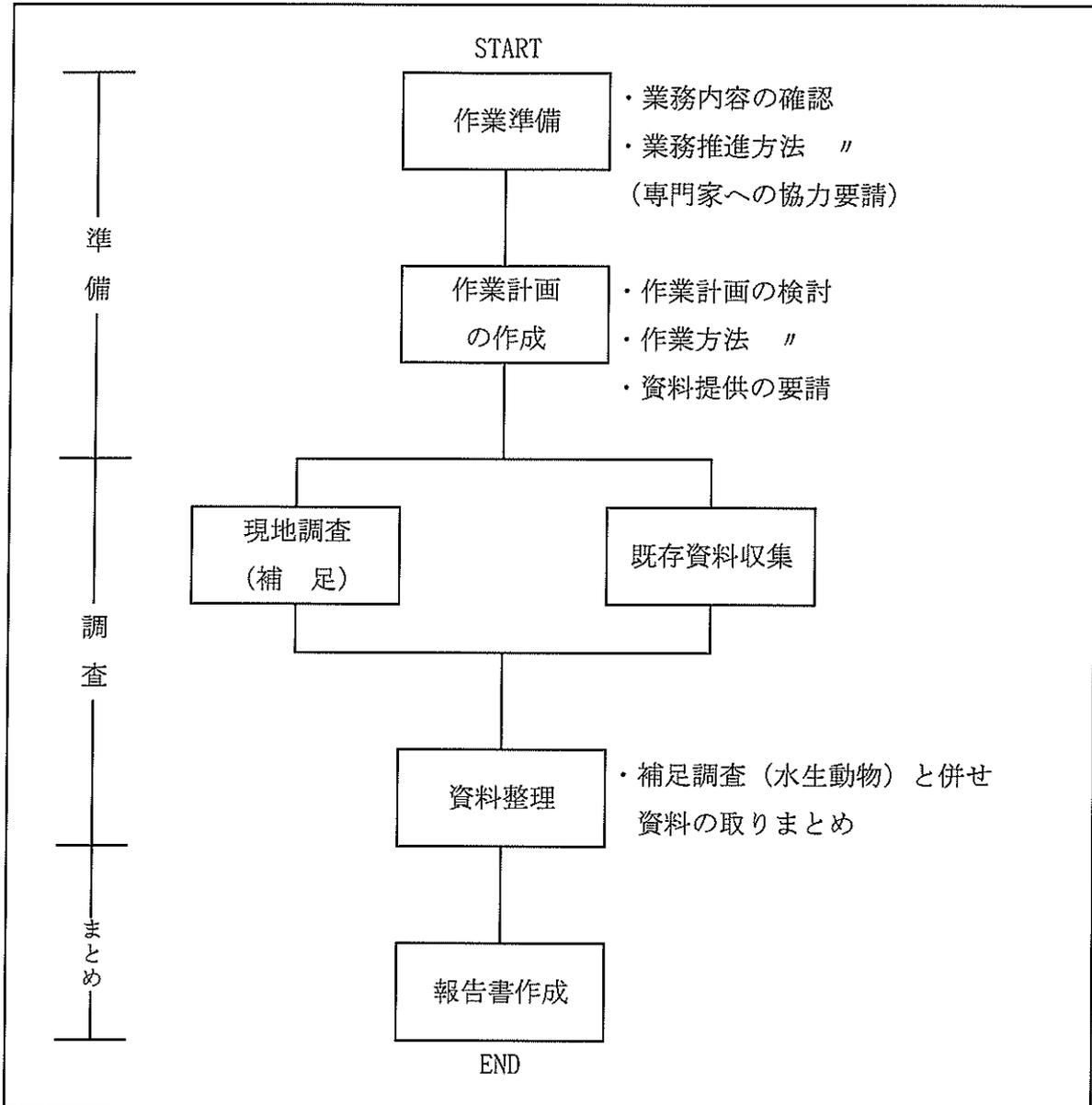
- ・ 調査は3名が1組となってそれぞれのポイントごとに、チクゴスズメノヒエの生育している場所を対象とする。
- ・ 採集はポットイを使う。
- ・ すくいあげた昆虫類等は、写真撮影によって記録する。

④ その他

魚類調査は平成5年度に1回行われているので、この調査資料を収集する。

4. 作業フロー

作業は下図のフローを進める。



5. 調査対象区域の整備推移

本工区は昭和53年度より工事がはじめられ、巴川の出水時には湛水機能を確保するため掘削工事等整備が行われている。整備の推移を記録した昭和62年以降の写真を挙げる。



工区全景

昭和62年1月1日撮影

同 上



平成6年1月30日撮影

同 上



平成8年9月23日撮影



工区全景

平成9年10月10日撮影

麻機湿原他

同上



工区全景

平成12年1月4日撮影



麻機湿原他

平成12年1月4日撮影



越流堤（七曲川）とふれあい広場

同上

6. 調査のまとめ

とりまとめは静岡植物研究会をはじめ各団体の代表者から提供された資料及び既存の調査資料を基にまとめる。

(1) 植物調査

第1回から第4回までの既存資料を基に、植物の生育場所と植物相を図と一覧表にまとめる。また、工事施工に伴って行われたレッドデータブック掲載種や他の地区ではあまり見られなくなっている植物（以下「珍しい植物」とする。）を移植したA・B地区の植物一覧表及びB・C地区の移植作業等記録した写真を挙げる。

①第1回・2回植物調査

第1回の調査は基本計画策定の基礎調査として15ポイントを対象に行われた。

その結果、オオオナモミなど31科90種が確認されている。

また、第2回は工事を施工するため、第1回の調査ポイントを中心に補足調査として行われ、レッドデータブック掲載種のみゾコウジュなど3科3種が確認され、この2回の調査で36科100種が確認されている。

以下に植物調査一覧表と平面図を挙げる。

第1回・2回植物調査一覧表

○：第1回調査（平成5年12月）

△：第2回調査（平成7年6月）

■：レッドデータブック掲載種

()内の文字はレッドデータブックの区分を示す

科名	種名	ポイント															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
キク	オオオナモミ						○	○		○	○						
	セイタカアワダチソウ	○	○	○	○		○			○		○		○	○	○	
	ヨメナ							○									
	ヒメジョオン						○		○			○					
	オオアレチノギク	○							○			○			○		
	アレチノノゲシ	○															
	コセンダングサ		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○		
	アメリカセンダングサ														○		
	ヨモギ	○						○	○	○	○	○	○				○
	カワラヨモギ												○				
	ノゲシ (ハルノノゲシ)							○				○	○	○			
	オニノゲシ		○		○				○	○	○	○	○				
	アキノノゲシ									○					○		
	ホソバノアキノノゲシ								○						○	○	
	オオジシバリ					○	○	○					○				
	ヒロハタンポポ															○	
	セイヨウタンポポ												○	○			
オニタビラコ												○					
ヒロハホウキギク		○		○				○	○								
オオバコ	オオバコ	○		○					○			○				○	
ゴマノハグサ	オオイヌノフグリ	○										○	○		○		
ナス	イヌホオズキ							○									

科名	種名	ポイント														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
シソ	ホトケノザ									○	○					
	ミゾコウジュ (NT)	△								△	△					○△
	トウバナ						○									
クマツヅラ	クマツヅラ			△												
アカネ	ヘクソカズラ		○			○										
	ヤエムグラ		○	○		○		○				○	○			
	ホソバノヨツバムグラ	○														
セリ	チドメグサ				○	○						○				
	ノチドメ											○				
	オヤブジラミ				○		○									
	マツバゼリ	○						○		○	○		○			
ウリ	ゴギヅル														△	
スマレ	ツボスマレ		○													
ブドウ	ノブドウ						○									
フウロソウ	アメリカフウロ										○					
カタバミ	カタバミ		○								○		○	○		
	ムラサキカタバミ							○			○					
マメ	シロツメクサ	○					○		○	○	○	○		○		
	カラスノエンドウ			○			○	○		○	○	○	○			
	クズ			○	○	○										
バラ	クサイチゴ											○				
	オヘビイチゴ							○								
	ヘビイチゴ			○	○	○	○			○		○				
ユキノシタ	タコノアシ (VU)			△											○△	
アブラナ	イヌガラシ			○												○
	スカシタゴボウ									○						○
	セイヨウカラシナ	○	○	○			○	○		○		○		○		
ケシ	ムラサキケマン							○								
キンポウゲ	ケキツネノボタン	○	○	○				○				○	○	○	○	
	センニンソウ					○				○						
ヒユ	ヒナタイノコズチ		○				○									
アカザ	ケアリタソウ									○	○	○				
ナデシコ	ハコベ									○						
	ムシトリナデシコ											○				
タデ	スイバ			○												
	ギシギシ											○				
	アレチギシギシ		○		○	○		○			○	○	○	○	○	
	ナガバギジギシ					○	○			○						○
	オオイヌタデ	○	○	○			○									○
	アキノウナギツカミ				○		○								○	
	ホソバノウナギツカミ						○	○								
カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	○											○		○	
	アゼガヤツリ											○				
	カンガレイ														△	△
	サンカクイ														△	
	フトイ														△	

科名	種名	ポイント															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
カヤツリグサ	アゼスゲ															△	
	ジュズスゲ	○			○		○					○					
	アゼナルコ			○		○					○				○		
ガマ	コガマ														○		
ミクリ	ミクリ (NT)										△					△	
イネ	ヨシ (アシ)	○	○	○			○	○	○	○		○			○		
	セイタカヨシ												○	○			
	カモジグサ		○				○										
	ネズミムギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
	スズメノカタビラ			○													
	シバ						○										
	トダシバ	○															
	エノコログサ												○				
	アキノエノコログサ									○	○	○	○	○			
	キンエノコロ	○				○	○	○				○			○		○
	キシウスズメノヒエ	○			○			○	○							○	○
	チクゴスズメノヒエ														○		
	オギ				○	○	○		○	○				○			○
	ジュズダマ		○				○	○				○	○		○		
タイヌビエ														○			
シナダレスズメガヤ				○													
イグサ	ホソイ							○							○	○	
アヤメ	オオニワゼキショウ														○	○	
ヒガンバナ	タマスダレ							○									
	ヒガンバナ		○				○	○		○	○			○			
ユリ	ノビル										○						
オモダカ	ヘラオモダカ										△				△		
トクサ	スギナ				○						○						
	イヌドクサ		△														
ヒルムシロ	エビモ (沈水植物)															△	
アリノトウグサ	オオフサモ (沈水植物)												○				
アオギヌゴケ	ハネヒツジゴケ (苔)															○	
36科100種 (第1回・2回合計) 〔 31科90種 (第1回) 9科12種 (第2回) 〕		レッドデータブック掲載種数 (第1回・2回合計) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 1科1種 準絶滅危惧類(NT) : 2科2種															
園芸・その他	ヤナギ (樹木)				○												
	メダケ (竹)						○										
	コスモス	○															
	ガザニアソウ												○				
	マツカサギク												○				
	ニンジン												○				

資料-1 植物の分布図

平成5年12月調査
平成7年6月調査



ミゾコウジュ No.14

- No. 1
- セイトカアワダチソウ
 - オオアレチギク
 - ヨモギ
 - アレチノゲシ
 - ホソバヨツバムグラ
 - オオバコ
 - オオイヌノフグリ
 - マツバゼリ
 - シロツメクサ
 - セイヨウカラシナ
 - ケキツネノボタン
 - オオイヌタデ
 - ネズミムギ
 - ヨシ
 - トダシバ
 - キンエノコロ
 - キシウスズメノヒエ
 - メリケンガヤツリ
 - ジュズダマ
 - コスモス

イヌドクサ No.15

- No. 2
- セイトカアワダチソウ
 - ヒロハホウキギク
 - コセンダングサ
 - オニノゲシ
 - ヘクソカズラ
 - ヤエムグラ
 - カタバミ
 - セイヨウカラシナ
 - ケキツネノボタン
 - ヒナタイノコズチ
 - アレチギシギシ
 - オオイヌタデ
 - ヒガンバナ
 - カモジグサ
 - ネズミムギ
 - ヨシ
 - ジュズダマ
 - ツボスミレ

タコノアシ No.16 No.17
クマツヅラ No.18

- No. 3
- セイトカアワダチソウ
 - コセンダングサ
 - ヤエムグラ
 - オオバコ
 - カラスノエンドウ
 - クズ
 - ヘビイチゴ
 - セイヨウカラシナ
 - イヌガラシ
 - ケキツネノボタン
 - スイバ
 - オオイヌタデ
 - ネズミムギ
 - スズメノカタビラ
 - ヨシ
 - アゼナルコ

- No. 4
- セイトカアワダチソウ
 - ヒロハホウキギク
 - コセンダングサ
 - オニノゲシ
 - チドメグサ
 - オヤブジラミ
 - クズ
 - ヘビイチゴ
 - アレチギシギシ
 - アキノウナギツカミ
 - ネズミムギ
 - シダレスズメガヤ
 - キシウスズメノヒエ
 - オギ
 - ジュズダマ
 - スギナ
 - ヤナギ (樹木)

- No. 5
- コセンダングサ
 - オオジシバリ
 - ヘクソカズラ
 - ヤエムグラ
 - チドメグサ
 - クズ
 - ヘビイチゴ
 - センニンソウ
 - アレチギシギシ
 - ナガバギシギシ
 - ネズミムギ
 - キンエノコロ
 - オギ
 - アゼナルコ

- No. 6
- オオオナモミ
 - セイトカアワダチソウ
 - ヒメジョオン
 - ヨモギ
 - コセンダングサ
 - オオジシバリ
 - ノゲシ
 - ホソバアキノノゲシ
 - イヌホウズキ
 - トウバナ
 - オヤブジラミ
 - カラスノエンドウ
 - シロツメクサ
 - ヘビイチゴ
 - セイヨウカラシナ
 - ヒナタイノコズチ
 - ナガバギシギシ
 - アキノウナギツカミ
 - ホソバウナギツカミ
 - オオイヌタデ
 - ヒガンバナ

- カモジグサ
- ネズミムギ
- ヨシ
- シバ
- キンエノコロ
- オギ
- ジュズダマ
- ジュズダマ
- ノブドウ
- メダケ (竹)

- No. 7
- オオオナモミ
 - ヨメナ
 - オオアレチノギク
 - ヒロハホウキギク
 - ヨモギ
 - コセンダングサ
 - オオジシバリ
 - オニノゲシ
 - ヤエムグラ
 - オオバコ
 - マツバゼリ
 - ムラサキカタバミ
 - カラスノエンドウ
 - オヘビイチゴ
 - セイヨウカラシナ
 - ケキツネノボタン
 - アレチギシギシ
 - ホソバウナギツカミ
 - ヒガンバナ
 - タマスダレ
 - ホソイ
 - ネズミムギ
 - ヨシ
 - キンエノコロ
 - キシウスズメノヒエ
 - ジュズダマ
 - ムラサキケマン

No. 13

- セイトカアワダチソウ
- オオアレチノギク
- コセンダングサ
- ヒロハタンポポ
- ホソバアキノノゲシ
- オオイヌノフグリ
- カタバミ
- シロツメクサ
- セイヨウカラシナ
- ケキツネノボタン
- アレチギシギシ
- ヒガンバナ
- ネズミムギ
- セイトカヨシ
- キンエノコロ
- チクゴスズメノヒエ
- タイヌビエ
- ジュズダマ

No. 12

- ヨモギ
- ハルノノゲシ
- アキノノゲシ
- ホソバアキノノゲシ
- ヤエムグラ
- マツバゼリ
- カタバミ
- カラスノエンドウ
- ケキツネノボタン
- アレチギシギシ
- ネズミムギ
- セイトカヨシ
- アキノエノコログサ
- オギ
- メリケンガヤツリ
- アゼガヤツリ
- オオフサモ

No. 15

- ゴキツル No.1
ミゾコウジュ No.2
ミクリ No.3
カンガレイ No.4
エビモ No.5
- セイトカアワダチソウ
 - ヨモギ
 - オオバコ
 - ミゾコウジュ
 - イヌガラシ
 - スカシタゴボウ
 - ナガバギシギシ
 - オオイヌタデ
 - オオニワゼキショウ
 - ホソイ
 - ネズミムギ
 - キンエノコロ
 - キシウスズメノヒエ
 - オギ

No. 14

- オニノゲシ
- ヤエムグラ
- オオイヌノフグリ
- チドメグサ
- カラスノエンドウ
- シロツメクサ
- ヘビイチゴ
- クサイチゴ

- No. 14
- セイトカアワダチソウ
 - タコノアシ
 - ケキツネノボタン
 - アレチギシギシ
 - アキノウナギツカミ
 - オオニワゼキショウ
 - ホソイ
 - ヨシ
 - キシウスズメノヒエ
 - メリケンガヤツリ
 - アゼナルコ
 - コガマ
 - ハネヒツジゴケ

No. 10

- オオオナモミ
- オオアレチノギク
- ヨモギ
- コセンダングサ
- セイヨウタンポポ
- ハルノノゲシ
- オニノゲシ
- オニタヒラコ
- オオバコ
- オオイヌノフグリ
- アメリカフウロ
- ホトケノザ
- マツバゼリ
- カタバミ
- ムラサキカタバミ
- カラスノエンドウ
- シロツメクサ
- ケアリタソウ
- アレチギシギシ

No. 9

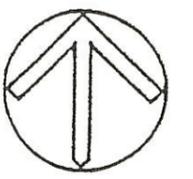
- オオオナモミ
- セイトカアワダチソウ
- ヨモギ
- コセンダングサ
- オニノゲシ
- ホトケノザ
- マツバゼリ
- カラスノエンドウ
- シロツメクサ
- ヘビイチゴ
- セイヨウカラシナ
- スカシタゴボウ
- センニンソウ
- ケアリタソウ
- ナガバギシギシ
- ヒガンバナ
- ネズミムギ
- ヨシ
- アキノエノコログサ
- オギ
- ハコベ

No. 8

- ヒメジョオン
- ヒロハホウキギク
- ヨモギ
- コセンダングサ
- オニノゲシ
- アキノノゲシ
- シロツメクサ
- ケアリタソウ
- ネズミムギ
- ヨシ
- アキノエノコログサ
- キシウスズメノヒエ
- オギ

ミゾコウジュ No.20

- オオオナモミ
- セイトカアワダチソウ
- ヨモギ
- コセンダングサ
- オニノゲシ
- マツバゼリ
- カラスノエンドウ
- シロツメクサ
- ヘビイチゴ
- セイヨウカラシナ
- スカタゴボウ
- センニンソウ
- ケアリタソウ
- ナガバギシギシ
- ヒガンバナ
- ネズミムギ
- ヨシ
- アキノエノコログサ
- オギ
- ハコベ



②第3回植物調査

本調査は越流堤工事の施工に伴うふれあい広場付近の調査及び平成8年度に第3工区から表土の移転された麻機湿原（保全植物の生育地平面図ではA地区）の2地区で行われている。

その結果、ふれあい広場付近ではヨナメなど38科146種が確認され、そのうちタコノアシなどレッドデータブック掲載種3科3種と珍しい植物のアリアケスマレなど4科4種が確認されている。

また、平成8年度に第3工区から表土が移転された麻機湿原では、レッドデータブック掲載種のタコノアシなど3科3種と珍しい植物のキクモなど7科9種が確認されている。

以下に植物調査一覧表と平面図を挙げる。

第3回植物調査一覧表

平成9年10月29日調査

■：珍しい植物

■：レッドデータブック掲載種

() 内の文字はレッドデータブックの区分を示す

科名	種名	科名	種名
キク	オオオナモミ	セリ	チドメグサ
	セイタカアワダチソウ		ノチドメ
	ヨメナ		オヤブジラミ
	ムカシヨモギ		セリ
	オオアレチノギク		マツバゼリ
	ヒメムカシヨモギ	アカバナ	ウスグチョウジダデ「注1」
	コセンダングサ	ミソハギ	ホソバヒメミソハギ
	アメリカセンダングサ	スマレ	アリアケスマレ
	タカサブロウ	トウダイグサ	エノキグサ
	ヨモギ		オオニシキソウ
	ノゲシ (ハルノノゲシ)	カタバミ	カタバミ
	アキノノゲシ	マメ	シロツメクサ
	ニガナ		コメツブツメクサ
	セイヨウタンポポ		クサネム
ヒロハホウキギク	アレチヌスビトハギ		
	メドハギ		
オオバコ	オオバコ		カスマグサ
ゴマノハグサ	アゼナ	バラ	カラスノエンドウ
	トキワハゼ		ノイバラ
	オオイヌノフグリ		オヘビイチゴ
	タチイヌノフグリ		
ナス	イヌホオズキ	ユキノシタ	タコノアシ (VU)
シソ	ホトケノザ	アブラナ	マメグンバイナズナ
	ミゾコウジュ (NT)		イヌガラシ
	トウバナ		スカシタゴボウ
	ヒメジソ		タネツケバナ
クマツヅラ	クサギ		セイヨウカラシナ
ヒルガオ	ヒルガオ	キンボウゲ	キツネノボタン
	アサガオ		ケキツネノボタン
	マメアサガオ		センニンソウ
アカネ	ヘクソカズラ	ヒユ	ヒナタイノコズチ
	ヤエムグラ		ホソアオゲイトウ
	ホソバノヨツバムグラ		アオゲイトウ

科名	種名	科名	種名
ヒユ	ホソバツルノゲイトウ	イネ	ギョウギシバ
アカザ	シロザ		ネズミノオ
	ケアリタソウ		オニシバ
ナデシコ	コハコベ		トダシバ
オシロイバナ	オシロイバナ		チカラシバ
タデ	スイバ		アキノエノコログサ
	ギシギシ		キンエノコロ
	アレチギシギシ		コツブキンエノコロ
	ナガバギシギシ		メヒシバ
	オオイヌタデ		アキメヒシバ
	イヌタデ		ヌカキビ
	ヤナギタデ		オオクサキビ
	ボントクタデ		イヌビエ
	ミゾソバ		ケイヌビエ
	サデクサ		キシウスズメノヒエ
	イシミカワ	シマスズメノヒエ	
	イタドリ	チクゴスズメノヒエ	
ハイミチヤナギ	チガヤ		
イラクサ	クサマオ	ススキ	
カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	オギ	
	コゴメガヤツリ	ジュズダマ	
	アゼガヤツリ	ツユクサ	
	クグガヤツリ	イボクサ	
	タマガヤツリ	イグサ	
	カワラスガナ	ホソイ	
	ミズガヤツリ	コウガイゼキショウ	
	イガガヤツリ	アヤメ	
	ヒメクグ	ヤマノイモ	
	サンカクイ	ヒガンバナ	
	マツバイ	タマスダレ	
	テンツキ	ヒガンバナ	
	アゼスゲ	ユリ	
	アゼナルコスゲ	トクサ	
	アオスゲ	スギナ	
	ジュズスゲ	ミズワラビ	
	アイダクグ	スイレン	
	オニバス (VU)		
	ガマ	コガマ	38科146種
	ヒメガマ	珍しい植物	
サトイモ	ショウブ	4科4種	
イネ	オニウシノケグサ	レッドデータブック掲載種	
	マコモ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)： 2科2種	
	ヨシ	準絶滅危惧類(NT)： 1科1種	
	ネズミムギ	「注1」植物版レッドリスト(平成9年9月28日・環境庁発行)に絶滅危惧類(VU)と記載されている。	
	イヌムギ	その他	
	クサヨシ	科名	
	ニワホコリ	種名	
	カゼクサ	クロウメモドキ	
	オヒシバ	ニレ	
		ドチカガミ	
	ヒルムシロ		
	ナツメ		
	エノキ		
	オオカナダモ		
	エビモ		
	4科4種		

平成8年度第3工区より表土移転地区の植物調査一覧表

平成9年10月29日調査

■ : 珍しい植物

■ : レッドデータブック掲載種

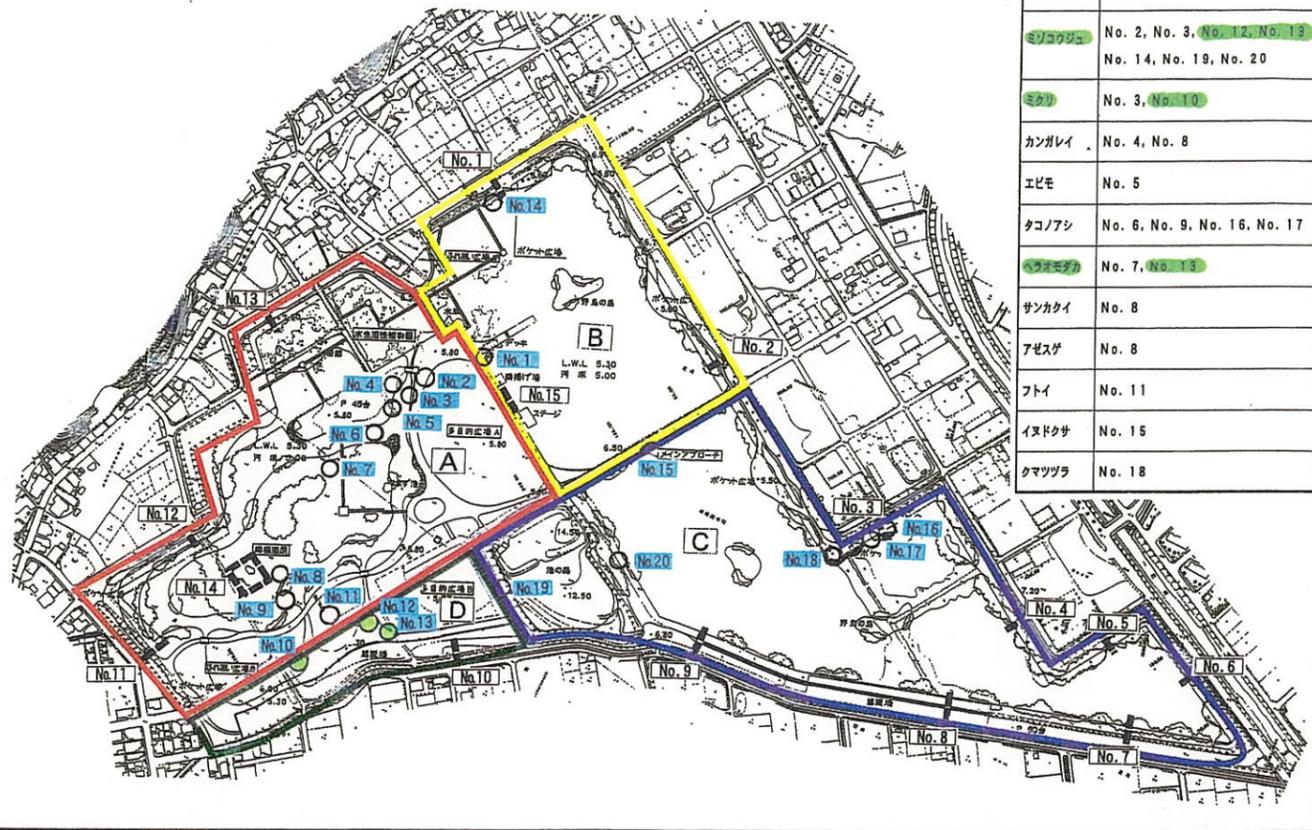
() 内の文字はレッドデータブックの区分を示す

科名	種名	科名	種名	
キク	ヒロハホウキギク	イネ	チゴザサ	
キキョウ	アゼムシロ		オオクサキビ	
ゴマノハグサ	スズメノトウガラシ		イヌビエ	
	アゼナ		ケイヌビエ	
	キクモ		オギ	
セリ	ノチドメ		チクゴスズメノヒエ	
アカバナ	ウスゲチョウジタデ		タイヌビエ	
ミソハギ	キカシグサ		ツユクサ	イボクサ
	ミズマツバ 「注1」		イグサ	コウガイゼキショウ
	ホソバヒメミソハギ		ミズアオイ	ミズアオイ (VU)
ミゾハコベ	イヌミゾハコベ		コナギ	
マメ	クサネム		ヒメホテイソウ	
	ツルマメ	オモダカ	クワイ	
ユキノシタ	タコノアシ (VU)	ミズワラビ	ミズワラビ	
スイレン	ハス	ミズニラ	ミズニラ (VU)	
タデ	イヌタデ	20科52種		
	ヤナギタデ	珍しい植物		
	ヌカボタデ 「注1」	7科9種		
	ヤナギヌカボ 「注1」	レッドデータブック掲載種		
	ヤノネグサ	絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 3科3種		
	サデクサ	その他		
カヤツリグサ	タマガヤツリ	科名	種名	
	ヒナガヤツリ	ヒルムシロ	イトモ 「注1」	
	カワラスガナ	イバラモ	ホッサモ	
	ミズガヤツリ	シャジクモ	シャジクモ 「注2」	
	イヌホタルイ	3科3種		
	カンガレイ	「注1」 植物版レッドリスト (平成9年9月28日・環境庁発行) に絶滅危惧類 (VU) と記載されている。		
	サンカクイ	「注2」 植物版レッドリスト (藻類レッドリスト、平成9年9月28日・環境庁発行) に絶滅危惧類Ⅰ類(CR+EN) と記載されている。		
	ハリイ			
	マツバイ			
	ヒデリコ			
	タイワンヤマイ			
メリケンガヤツリ				
ガマ	ヒメガマ			
イネ	アシカキ			
	ヨシ			
	スズメノテッポウ			

第3回植物調査平面図
(平成9年10月29日調査)



平成7年6月 調査



野原名	植物No.
ゴキツル	No. 1
ミソコウジュ	No. 2, No. 3, No. 12, No. 13 No. 14, No. 19, No. 20
ミカ	No. 3, No. 10
カンガレイ	No. 4, No. 8
エビモ	No. 5
クノアシ	No. 6, No. 9, No. 16, No. 17
サンカクイ	No. 8
アゼナ	No. 8
フトイ	No. 11
イヌドクサ	No. 15
クマツヅラ	No. 18

平成8年度第3工区より表土移転地区

ヒロハホウキギク	ヤノネグサ	ハリイ
アゼムシロ	スカタシ	チクゴズメノヒエ
スズメノトウガラシ	コウガイゼキショウ	オギ
アゼナ	ミスアオイ	ケイヌビエ
ミカ	コナギ	ヨシ
ノチドメ	ヒメホテイソウ	イヌビエ
ウスゲチョウジタデ	イボクサ	アシカキ
ホソバヒメミソハギ	ミソカクイ	オオクサキビ
クサネム	マツバイ	タイヌビエ
キカシグサ	タコノアシ	チゴザサ
イヌミソハコベ	カンガレイ	スズメノテッポウ
クサネム	メリケンガヤツリ	ミズガヤツリ
ツルマメ	イヌホタルイ	ヒメホタルイ
ハス	ヒナガヤツリ	ヒナガヤツリ
ヤナギタデ	タマガヤツリ	イトモ
サデクサ	カワラスガナ	シャジクモ
イヌタデ	ヒデリコ	ホッソモ

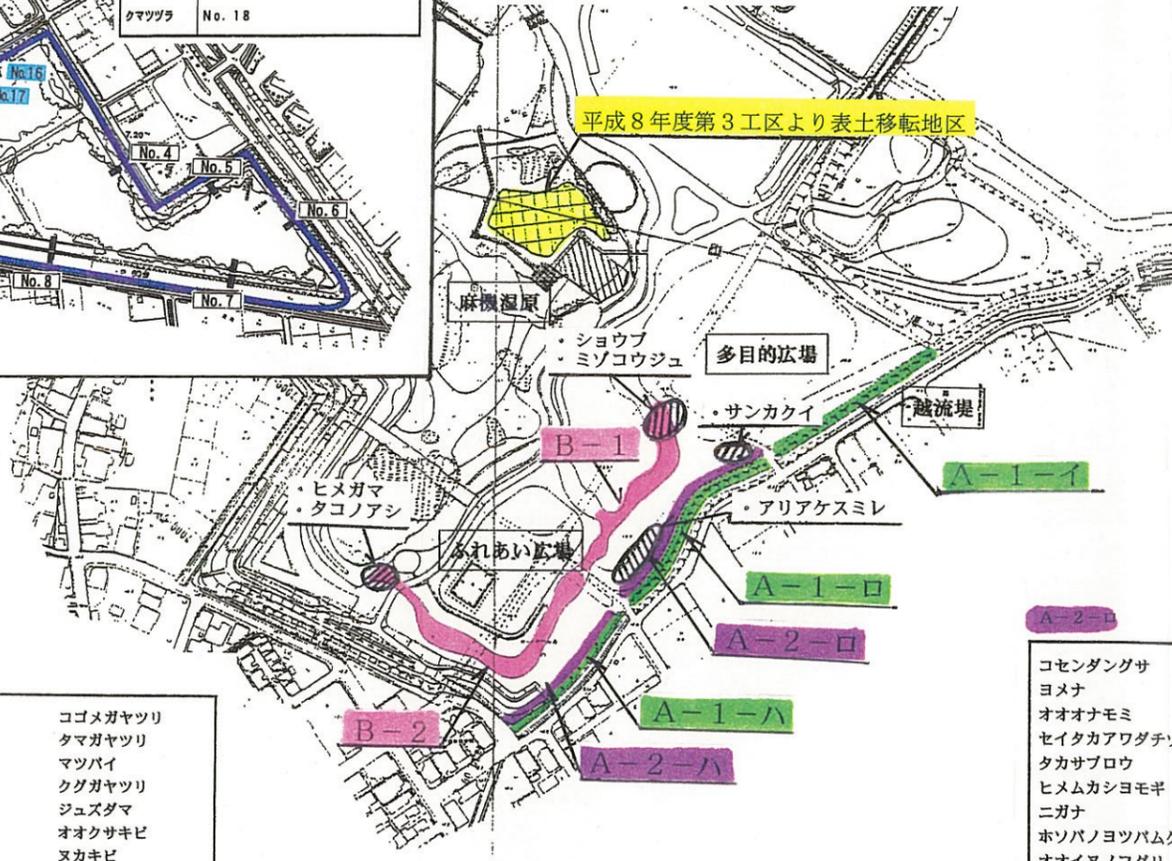
A-1-1

セイトカアワダチソウ	ヤナギタデ
コセンダングサ	ギシギシ
ヒロハホウキギク	ハイミチヤナギ
オオオナモミ	クサマオ
ヨモギ	メリケンガヤツリ
ヒメムカシヨモギ	ヨシ
オオアレチノギク	ネズミノオ
アキノノゲシ	オヒシバ
ヘクソカズラ	コツブキンエノコロ
イヌホオズキ	キンエノコロ
クサギ	シマスズメノヒエ
マメアサガオ	カゼクサ
アレチヌスビトハギ	メヒシバ
センニンソウ	ジュズダマ
ヒナタノイノコズチ	キシウスズメノヒエ
ホリアオゲイトウ	オギ
ケアリタソウ	チカラシバ
シロザ	オニウシノケグサ
イタドリ	アキノエノコログサ
ミゾソバ	クサヨシ

A-1-10

セイトカアワダチソウ	ギシギシ
コセンダングサ	オシロイバナ
オオオナモミ	ツククサ
ヨモギ	コゴメガヤツリ
オオアレチノギク	アオスゲ
ヨメナ	ヨシ
イヌホオズキ	メヒシバ
マメアサガオ	オヒシバ
マツバゼリ	オニウシノケグサ
カタバミ	アキノエノコログサ
アレチヌスビトハギ	シマスズメノヒエ
ノイバラ	ネズミノオ
マメグンバイナズナ	ジュズダマ
アオゲイトウ	オギ
ヒナタノイノコズチ	アキメヒシバ
ケアリタソウ	イヌビエ
ミゾソバ	チカラシバ
アレチギシギシ	ススキ
イヌタデ	マコモ
イタドリ	カゼクサ
ナガバギシギシ	エノキ

平成8年度第3工区より表土移転地区



A-1-100

タカサブロー	カラスノエンドウ	ニラ
ヨメナ	スカシタゴボウ	ツククサ
オオオナモミ	セイヨウカラシナ	メリケンガヤツリ
コセンダングサ	キツネノボタン	コゴメガヤツリ
セイヨウタンポポ	ケキツネノボタン	アオスゲ
ヒロハホウキギク	コハコベ	クサヨシ
アメリカセンダングサ	ヒナタノイノコズチ	イヌムギ
アキノノゲシ	ホリアオゲイトウ	シマスズメノヒエ
ヨモギ	ホソバツルノゲイトウ	ヒメムカシヨモギ
オオバコ	ケアリタソウ	キンエノコロ
タチイヌノフグリ	スイバ	ネズミムギ
トウバナ	ギシギシ	キシウスズメノヒエ
セリ	オオイヌタデ	ヨシ
ノチドメ	ヤナギタデ	アキノエノコログサ
ウスゲチョウジタデ	アレチギシギシ	イヌビエ
エノキグサ	イヌタデ	オヒシバ
カタバミ	ヒガンバナ	ナツメ
カスマグサ	タマスダレ	エノキ
		オオカナダモ、エビモ

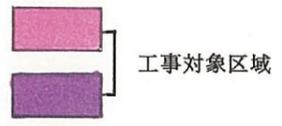
B-1

ヒロハホウキギク	タマガヤツリ
タカサブロー	アゼナルコスゼ
ミソコウジュ	アゼガヤツリ
ヒメジソ	ミスガヤツリ
ウスゲチョウジタデ	キシウスズメノヒエ
ホソバヒメミソハギ	ヨシ
クサネム	アイダク
オヘビイチゴ	コツブキンエノコロ
ヤナギタデ	シマスズメノヒエ
アレチギシギシ	チクゴズメノヒエ
ホソイ	オオクサキビ
コウガイゼキショウ	イヌビエ
イボクサ	オギ
ミソカクイ	チガヤ
カワラスガナ	ケイヌビエ
テンツキ	ヒメガマ
コゴメガヤツリ	スギナ

B-2

オオオナモミ	コメツツメクサ	コゴメガヤツリ
セイトカアワダチソウ	シロツメクサ	タマガヤツリ
セイヨウタンポポ	オヘビイチゴ	マツバイ
ヨモギ	タコノアシ	クグガヤツリ
コセンダングサ	スカシタゴボウ	ジュズダマ
オオアレチノギク	タネツケバナ	オオクサキビ
ホソバノヨツバムグラ	イヌガラシ	ヌカキビ
アゼナ	ケキツネノボタン	アキメヒシバ
トキワハゼ	ホソバツルノゲイトウ	シマスズメノヒエ
ヒルガオ	ホリアオゲイトウ	キシウスズメノヒエ
マメアサガオ	ツククサ	キンエノコロ
マツバゼリ	ボントクダ	ケイヌビエ
チドメグサ	イヌタデ	マコモ
セリ	ミゾソバ	チクゴズメノヒエ
ウスゲチョウジタデ	イシミカワ	アキノエノコログサ
ホソバヒメミソハギ	アレチギシギシ	ニワホコリ
エノキグサ	オオイヌタデ	ヒメガマ
クサネム	メリケンガヤツリ	コガマ
		ミスラワラビ

※図中の凡例



※表中の凡例



A-2-1

コセンダングサ	サデクサ
ヨメナ	オオニワゼキショウ
オオオナモミ	ヤマノイモ
セイトカアワダチソウ	ホソイ
タカサブロー	イガガヤツリ
ヒメムカシヨモギ	テンツキ
ニガナ	ミスガヤツリ
ホソバノヨツバムグラ	アゼナルコスゲ
オオイヌノフグリ	タマガヤツリ
ミソコウジュ	サンカクイ
ホトケノザ	コゴメガヤツリ
マメアサガオ	オギ
アリアケスミレ	アキノエノコログサ
オオニシキソウ	ヒメムカシヨモギ
カラスノエンドウ	アキメヒシバ
シロツメクサ	トダシバ
コメツツメクサ	チガヤ
クサネム	チクゴズメノヒエ
メドハギ	ギョウギシバ
セイヨウカラシナ	オオクサキビ
センニンソウ	ヒメク
ヒナタノイノコズチ	コツブキンエノコロ
イタドリ	スギナ

A-2-10

オオオナモミ	ギシギシ
ヒロハホウキギク	アレチギシギシ
コセンダングサ	イシミカワ
セイトカアワダチソウ	ツククサ
タカサブロー	コゴメガヤツリ
セイヨウタンポポ	アゼスゲ
ハルノノゲシ	クグガヤツリ
ヨモギ	ヒメク
ヘクソカズラ	メリケンガヤツリ
ヤエムグラ	テンツキ
オオバコ	シマスズメノヒエ
ヒルガオ	メヒシバ
マメアサガオ	オヒシバ
アサガオ	オニシバ
オヤブシラミ	コツブキンエノコロ
カタバミ	キシウスズメノヒエ
アレチヌスビトハギ	アキメヒシバ
カラスノエンドウ	イヌビエ
ノイバラ	ヨシ
スカシタゴボウ	ネズミムギ
ホソバツルノゲイトウ	カゼクサ
ヒナタノイノコズチ	ジュズダマ
ホリアオゲイトウ	キンエノコロ
イヌタデ	

③第4回植物調査

本調査は周囲堤工事の施工及びふれあい広場付近の掘削工事に伴って行われている。

その結果、レッドデータブック掲載種のミゾコウジュと珍しい植物のオギノツメなど9科14種が確認されている。

以下に植物調査一覧表と平面図を挙げる。

第4回植物調査一覧表

平成10年10月11日調査

■：珍しい植物

■：レッドデータブック掲載種

()内の文字はレッドデータブックの区分を示す

科名	種名
キツネノマゴ	オギノツメ
シソ	ミゾコウジュ (NT)
ウリ	ゴキズル
スマレ	アリアケスマレ
タデ	ヤナギタデ
	ホソバノウナギツカミ
カヤツリグサ	ミズガヤツリ
	カンガレイ
	サンカクイ
	カサスゲ
ガマ	ヒメガマ
サトイモ	ショウブ
イネ	セイタカヨシ
	オギ
ヤナギ	カワヤナギ
10科15種	
珍しい植物	
9科14種	
レッドデータブック掲載種	
準絶滅危惧類(NT)： 1科1種	

④保全植物の生育状況

本工区は平成12年の完成を目指した治水工事が行われている。これまでに保全対策（ミティゲーション）として移植された場所を「保全植物の生育地平面図」に挙げる。

麻機多目的遊水地 (第4工区)
第4回植物調査平面図

(平成10年10月11日)

S: 1/4000

A-A断面



②地区
自動車の踏圧もあり
A型・B型植物は見
られない。

①地区
セイタカアワダチソウ
(帰化植物)が多く、他の植物
はごく少ない。

調査年月日 平成10年10月11日(日)
調査員 前島田女・平野時子・鈴木和喜

凡例
 A型: レッドデータブック掲載植物
 B型: 珍しい植物
 調査対象地区

B型
③地区
オギ
ヤナギタデ
ショウブ
ゴキズル

B型
④地区
ホソバノウナギツカミ

⑤地区
①地区と同じ様な状況

B型
⑥地区
ヤナギタデ
オギ
カサスゲ

B型
⑦地区
オギノツメ
カサスゲ
セイタカヨシ
ショウブ

B型
⑧地区
オギ

B型
⑨地区
ヤナギタデ
オギ
ヒメガマ

A型
⑩地区
ミゾコウジュ

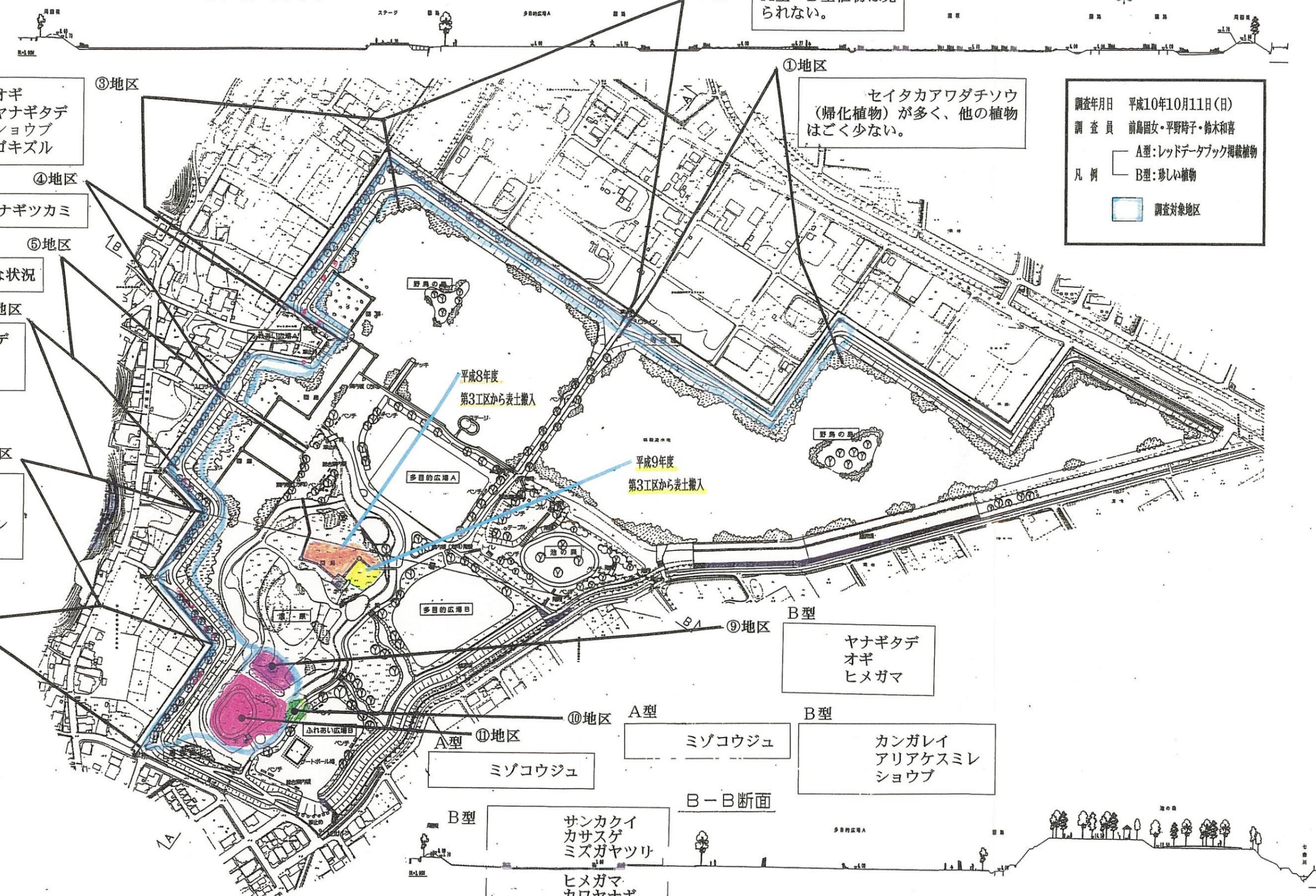
B型
カンガレイ
アリアケスミレ
ショウブ

B型
サンカクイ
カサスゲ
ミズガヤツリ
ヒメガマ
カワヤナギ

B-B断面

平成8年度
第3工区から表土搬入

平成9年度
第3工区から表土搬入



麻機多目的遊水地（第4工区）
保全植物の生育地平面図

S=1:4000



B地区植物調査

■：珍しい植物

■：レッドデータブック掲載種

() 内の文字はレッドデータブックの区分を示す

第3回植物調査

調査：平成9年10月29日

移植：平成9年12月10日

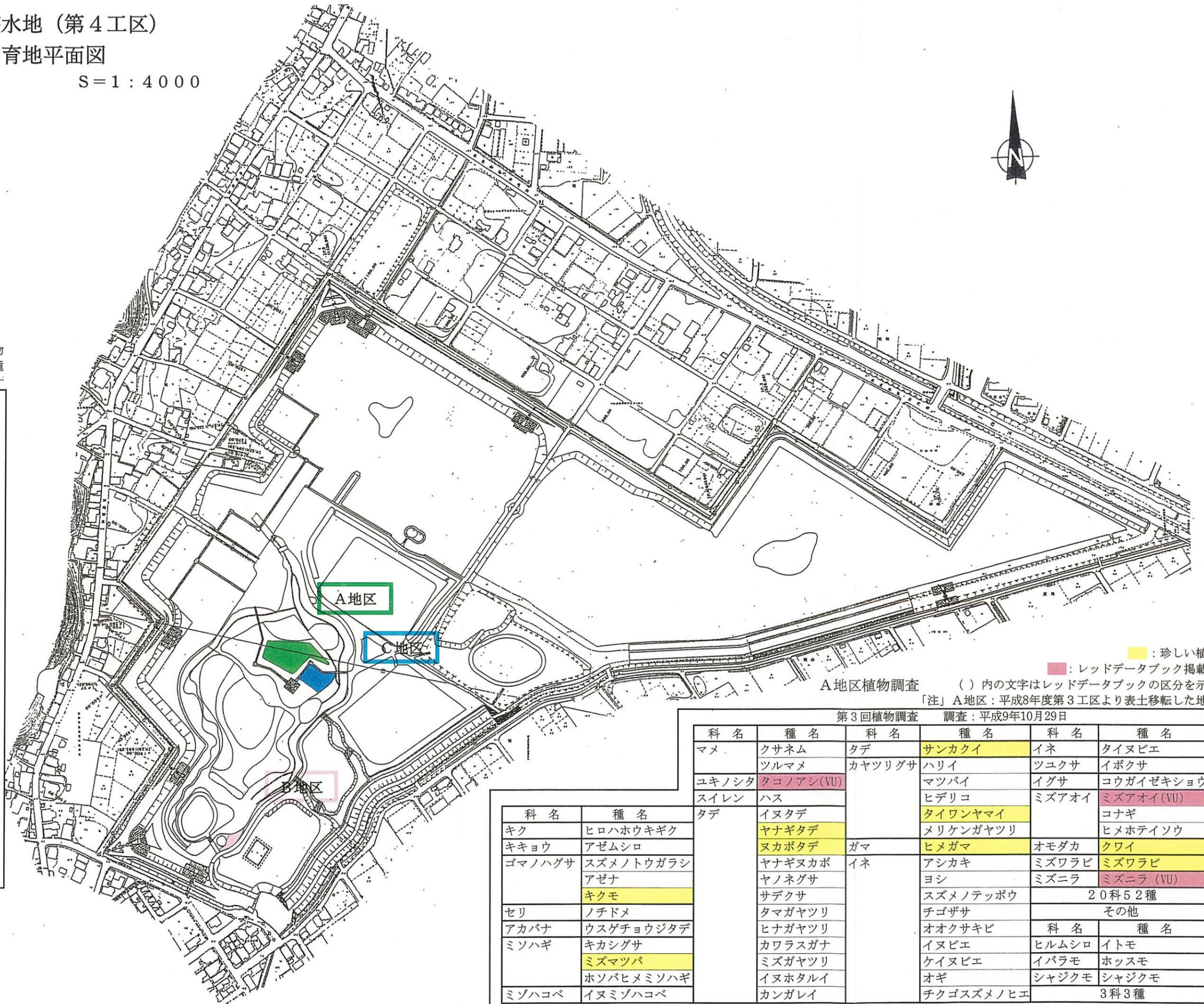
科名	種名
ユキノシタ	タコノアシ (VU)
シソ	ミソコウジュ (NT)
スマレ	アリアケスマレ
カヤツリグサ	サンカクイ
ガマ	ヒメガマ
サトイモ	ショウブ

第4回植物調査

調査：平成10年10月11日

移植：平成10年11月6日

科名	種名
キツネノマゴ	オギノツメ
シソ	ミソコウジュ (NT)
ウリ	ゴキズル
スマレ	アリアケスマレ
タデ	ヤナギタデ
	ホソバナウナギツカミ
カヤツリグサ	ミズガヤツリ
	カンガレイ
	サンカクイ
	カサスゲ
ガマ	ヒメガマ
サトイモ	ショウブ
イネ	セイタカヨシ
	オギ
ヤナギ	カワヤナギ



A地区植物調査

■：珍しい植物

■：レッドデータブック掲載種

() 内の文字はレッドデータブックの区分を示す

第3回植物調査 調査：平成9年10月29日

科名	種名	科名	種名	科名	種名
マメ	クサネム	タデ	サンカクイ	イネ	タイヌビエ
	ツルマメ	カヤツリグサ	ハリイ	ツユクサ	イボクサ
ユキノシタ	タコノアシ (VU)		マツバイ	イグサ	コウガイゼキショウ
スイレン	ハス		ヒデリコ	ミズアオイ	ミズアオイ (VU)
タデ	イヌタデ		タイワンヤマイ		コナギ
キク	ヒロハホウキギク		メリケンガヤツリ		ヒメホテイソウ
キキョウ	アゼムシロ	ガマ	ヒメガマ	オモダカ	クワイ
ゴマノハグサ	スズメノトウガラシ	イネ	アシカキ	ミズワラビ	ミズワラビ
	アゼナ		ヨシ	ミズニラ	ミズニラ (VU)
	キクモ		スズメノテッポウ		20科52種
セリ	ノチドメ		チゴザサ		その他
アカバナ	ウスゲチョウジタデ		オオクサキビ	科名	種名
ミソハギ	キカシグサ		イヌビエ	ヒルムシロ	イトモ
	ミズマツバ		ケイヌビエ	イバラモ	ホッスモ
	ホソバヒメミソハギ		オギ	シャジクモ	シャジクモ
ミゾハコベ	イヌミゾハコベ		チクゴスズメノヒユ		3科3種

⑤保全対策の状況

「保全植物の生育地平面図」に記載したB・C地区の植物保全状況の記録写真を挙げる。

B 地 区



越流堤工事に伴う

ミゾコウジュの堀取り作業

平成9年12月19日撮影



移植場所（B地区）の
床ごしらえ作業

平成9年12月19日撮影

ミゾコウジュの移植作業

平成9年12月19日撮影





アリアケスミレの生育状況

平成11年4月5日撮影



同上

平成11年4月5日撮影

ヨシ等の生育状況

平成11年8月4日撮影



C 地区



第3工区（子ども病院南側）の
表土移転作業

平成9年10月17日撮影



C地区の表土掘削作業

平成9年10月10日撮影



掘削厚約0.9m

平成9年10月11日撮影



第3工区の表土移転作業

平成9年10月20日撮影

移転作業完了
※表面は特に均さないで、
凹凸のままにした
平成9年10月29日撮影





生育状況

平成10年5月30日撮影



同上

平成10年7月25日撮影

同上
平成10年9月13日撮影



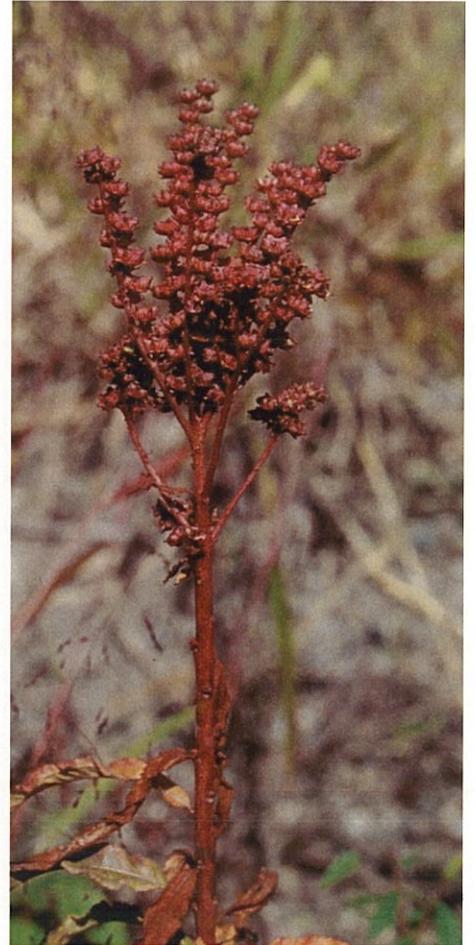
同上

平成10年10月11日撮影





ミズアオイ科 ミズアオイ



ユキノシタ科

タコノアシ



シソ科 ミゾコウジュ

本工区を代表する植物

提供：伴野正志氏

(2) 昆虫類調査

本調査は静岡昆虫同好会会員の伴野正志氏が観察記録されてきたアゲハなど12科43種、トンボ類ではキイトンボなど8科35種、甲虫類7科19種、昆虫類8科14種を一覧表に挙げる。麻機遊水地を特徴づける注目すべき昆虫類は同会代表の高橋真弓氏に挙げていただいた。

昆虫類調査一覧表

1. チョウ類

科名	種名
アゲハチョウ	アゲハ
	キアゲハ
	クロアゲハ
	モンキアゲハ
	カラスアゲハ
	ジャコウアゲハ
	アオスジアゲハ
シロチョウ	モンシロチョウ
	スジグロシロチョウ
	モンキチョウ
	キチョウ
	ツマキチョウ
タテハチョウ	アカタテハ
	ヒメアカタテハ
	キタテハ
	ヒオドシチョウ
	ルリタテハ
	ゴマダラチョウ
	コムラサキ
	アサマイチモンジ
	コムスジ
	ツماغロヒョウモン
シジミチョウ	ウラナミシジミ
	ルリシジミ
	ヤマトシジミ
	ツバメシジミ
	ベニシジミ
	ウラギンシジミ
マダラチョウ	アサギマダラ
ジャノメチョウ	ヒメウラナミジャノメ
	ヒメジャノメ
	サトキマダラヒカゲ
	クロコノマチョウ
テングチョウ	テングチョウ
セセリチョウ	イチモンジセセリ
	チャバネセセリ
	キマダラセセリ

科名	種名
スズメガ	オオスカシバ
	ホシホウジャク
カノコガ	カノコガ
	キハダカノコ
イラガ	イラガ
ミノガ	オオミノガ
12科43種	

2. トンボ類

科名	種名
イトトンボ	キイトトンボ
	アジアイトトンボ
	アオモンイトトンボ
	クロイトトンボ
	セスジイトトンボ
アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ
カワトンボ	ハグロトンボ
	ニシカワトンボ
	ミヤマカワトンボ
サナエトンボ	ウチワヤンマ
オニヤンマ	オニヤンマ
ヤンマ	ミルンヤンマ
	マルタンヤンマ
	オオギンヤンマ
	ギンヤンマ
	カトリヤンマ
ヤマトンボ	オオヤマトンボ
トンボ	ハラビロトンボ
	シオカラトンボ
	オオシオカラトンボ
	ショウジョウトンボ
	コフキトンボ
	ミヤマアカネ
	ナツアカネ
	アキアカネ
	マイコアカネ
	マユタテアカネ
	リスアカネ
	ノシメトンボ
	コノシメトンボ
	コシアキトンボ
	ウスバキトンボ
	キトンボ
	ネキトンボ
チョウトンボ	
8科35種	

3. 甲虫類

科名	種名
クワガタムシ	ヒラタクワガタ
	コクワガタ
	ノコギリクワガタ (小型)
コガネムシ	カブトムシ
	コガネムシ
	ドウガネブイブイ
	マメコガネ
	クロコガネ
	カナブン
	コアオハナムグリ
シロテンハナムグリ	
ホタル	ゲンジボタル
タマムシ	ヤマトタマムシ
テントウムシ	ナミテントウ
	ナナホシテントウ
カミキリムシ	ゴマダラカミキリ
	ラミーカミキリ
ゾウムシ	ハスジカツオゾウムシ
	オオゾウムシ
7科19種	

4. 昆虫類

科名	種名
セミ	ニイニイゼミ
	アブラゼミ
	クマゼミ
	ヒグラシ
	ミンミンゼミ
	ツクツクボウシ
ハゴロモ	ベッコウハゴロモ
アオバハゴロモ	アオバハゴロモ
カメムシ	ナガメ
マメカメムシ	マルカメムシ
ヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ
	クモヘリカメムシ
アメンボ	アメンボ
ツノトンボ	ツノトンボ
8科14種	

注目すべき昆虫類について

昆虫類調査一覧表のうち、つぎの種は麻機遊水地を特徴づけるものと思われる。

1) ツマグロヒョウモン

近年静岡県中西部に増加したチョウで、遊水地でもかなり目につくようになった。幼虫はスミレ類の葉を食べる。

2) コムラサキ

ヤナギ類に発生する。かっ色型と黒色型の二つの遺伝型がある。

3) ウチワヤンマ

大型のサナエトンボで水中の杭などによくとまる。

4) オオヤマトンボ

岸に近いところを速やかに飛ぶ。一見オニヤンマに似ている。

5) ギンヤンマ

飛び方はきわめて軽快で岸に沿って速やかに飛ぶ。夏から秋にかけて近縁のオオギンヤンマが南方から飛来することがある。

6) マイコアカネ

6月ごろ羽化することが確かめられている。夏から秋にかけてはまだ見つかっていない。静岡平野では他の地域からは発見されていない。

7) チョウトンボ

この数年遊水地にも非常に多くなった。このトンボが多いことは、遊水地にトンボ類が住めることを意味している。



トンボ科 ショウジョウトンボ



イトトンボ科 アオモンイトトンボ



トンボ科 チョウトンボ

本工区で見られるトンボ

提供：伴野正志氏

(3) 鳥類調査

本調査は(財)日本野鳥の会静岡支部が昭和58年(1983年)から観察記録されてきた資料である。その結果、平成12年2月現在までに43科199種の鳥類が確認されている。

以下に静岡支部から提供された資料及び鳥類一覧表を挙げる。

麻機遊水地周辺の鳥類

(財)日本野鳥の会・静岡支部
伴野正志

1. 麻機の鳥類(1983~2000)

1983年以降、16日43科199種の野鳥が記録されている。

年別の記録種数

年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
種数	103	116	115	124	113	108	116	112	116
年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
種数	126	136	119	142	123	122	109	116	64

(2000年は2月現在)

2. 環境別

生息する環境別に麻機の鳥類を分類すると、下記のようなになる。

山野の鳥：110種(55.3%) 水辺の鳥：89種(44.7%)

因みに日本産鳥類555種では、下記のようなになる。

山野の鳥：288種(51.9%) 水辺の鳥：267種(48.1%)

3. 渡りによる分類

夏鳥、冬鳥のように渡りによる分類をすると下記のようなになる。

留鳥(周年生息) : 28種(14.1%) ----- カガモ、ケリ、キジバト、スズメ、ムクドリ など

夏鳥 : 10種(5.0%) ----- コチドリ、コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ など

冬鳥(漂鳥を含む) : 54種(27.1%) ----- マガモ、コガモ、ノスリ、タゲリ、タンギ、ツグミ など

旅鳥(通過) : 66種(33.2%) ----- 麻機地区における旅鳥(ヒタキ・アマツバメなどを含む)

不明(迷鳥) : 41種(20.6%) ----- 現時点の出現状況では渡りの分類ができない種(ヤツガシラなど)

4. 日本版レッドデータブック(環境庁編)に掲載されている絶滅危惧種など(下記に麻機で記録された鳥類25種を示す)

絶滅危惧IA類(EX) : コウノトリ、コシャクシギ(2種)

絶滅危惧IB類(EN) : サンカノゴイ、オオヨシゴイ、クマタカ、イヌワシ
セイタカシギ(5種)

絶滅危惧II類(VU) : トモエガモ、オオワシ、オオタカ、チュウヒ、ハヤブサ、
シマクイナ、ツバメチドリ、コアジサシ、コジュリン(9種)

準絶滅危惧(NT) : チュウサギ、マガン、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、
オオジシギ、アカモズ、ノジコ(8種)

情報不足(DD) : ウズラ(1種)

5. その他、麻機における稀少鳥・迷鳥などの記録

アカエリカイツブリ、アカガシラサギ、ムラサキサギ、アメリカヒドリ、
コチョウゲンボウ、ヒメクイナ、シロハラクイナ、ツルクイナ、レンカク、
ハジロコチドリ、アメリカウズラシギ、チュウジシギ、クロハラアジサシ、
ヤツガシラ、ツメナガセキレイ、ツリスガラ、コホオアカ などの記録がある

6. 繁殖している(または環境から見て繁殖していると思われる)鳥類

留鳥・夏鳥のあわせて38種の内、31種の鳥類が繁殖または繁殖していると思われる。

- 繁殖が確認された鳥類(27種) ----- 巣・卵・雛を確認している種
カイツブリ、ヨシゴイ、カルガモ、キジ、ヒクイナ、バン、オオバン
タマシギ、ケリ、コチドリ、キジバト、ヒメアマツバメ、カワセミ、ヒバリ
ツバメ、コシアカツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、モズ、オオヨシキリ
セッカ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス
ハシブトガラス
- 繁殖していると思われる鳥類(4種)
ハクセキレイ、ヒヨドリ、コヨシキリ、シジュウカラ
- 遊水地内で繁殖している鳥類(11種)
カイツブリ、ヨシゴイ、カルガモ、キジ、バン、オオバン、コチドリ、モズ
オオヨシキリ、セッカ、ハシボソガラス

7. 最近10年間で増えている鳥減っている鳥

増加傾向にある鳥：カワウ、ダイサギ、アオサギ、カモ類、バン、オオバン、
キジバト、モズ、ムクドリ、カラス類 など。

減少傾向にある鳥：ヨシゴイ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、タマシギ、コチドリ
シギ類(タシギなど) コアジサシ、ヒバリ、タヒバリ、ツグミ
オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ類(カシラダカ) など

8. 遊水地を主な生息地としている鳥類

カイツブリ科、ウ科、サギ科、カモ科、クイナ科、カモメ科、カワセミ科など。
遊水地が干潟状になった時には、シギ・チドリ類も多数利用する。

9. 遊水地の利用状況と必要性

繁殖、越冬、採餌、埒、休息の要素を重なり合って利用していると思われる。中でも、カモ類(20種)の越冬地として約1000羽が毎冬飛来している。また、コサギツバメ等が埒として利用している。遊水地内で繁殖している鳥類については前述の通りである。

静岡市内には池沼が少なく、開水面約30haの麻機遊水地は野鳥に限らず重要な水辺といえる。因みにトンボ類は35種を確認している。

10. 日本野鳥の会静岡支部と麻機遊水地との関わり

- 年2回、一般公募の探鳥会を開催(5月・11月)
- 毎月定例の麻機定例探鳥会を開催している(2月までに137回の実績がある)
- 1985年10月27日に遊水地周辺の清掃を目的とした探鳥会を実施。
- 1986年より毎年10月に行われる有害鳥獣駆除に対し中止申し入れ及び、安全面から銃器使用の自粛の申し入れ等を農林事務所に文書にて行った。
- 野鳥観察の普及のため、支部オリジナルの野鳥看板を設置(1989年)
- 公民館等主催の観察会の探鳥指導を随時行っている。
- 毎年1月15日にガンカモハクチョウ類カウント調査を遊水地で実施。
- 支部会員による、麻機の鳥類調査(1983年より、現在18年目)

(財)日本野鳥の会・静岡支部 (TEL & FAX 054-208-5466)

〒422 静岡市沓谷5丁目4-2 三保建築設計事務所2F

鳥類調査一覧表

■ : 麻機遊水地における稀少鳥・迷鳥

■ : レッドデータブック掲載種

() 内の文字はレッドデータブックの区分を示す

科名	種名	科名	種名		
カイツブリ	カイツブリ	タカ	ミサゴ(NT)		
	ハジロカイツブリ		ハチクマ(NT)		
	アカエリカイツブリ		トビ		
	カンムリカイツブリ		オオワシ(VU)		
ウ	カワウ			オオタカ(VU)	
サギ	サンカノゴイ(EN)			ツミ	
	ヨシゴイ			ハイタカ(NT)	
	オオヨシゴイ(EN)			ノスリ	
	ゴイサギ			サシバ	
	ササゴイ			クマタカ(EN)	
	アカガシラサギ			イヌワシ(EN)	
	アマサギ			ハイイロチュウヒ	
	ダイサギ			チュウヒ(VU)	
	ダイサギ		ハヤブサ	ハヤブサ(VU)	
	チュウダイサギ			チゴハヤブサ	
	チュウサギ(NT)			コチョウゲンボウ	
	コサギ			チョウゲンボウ	
	アオサギ			キジ	ウズラ(DD)
	ムラサキサギ				キジ
コウノトリ	コウノトリ(EX)	クイナ	クイナ		
カモ	マガン(NT)		ヒメクイナ		
	コハクチョウ		ヒクイナ		
	オシドリ		シマクイナ(VU)		
	マガモ		シロハラクイナ		
	カルガモ		バン		
	コガモ		ツルクイナ		
	コガモ		オオバン		
	アメリカコガモ		レンカク		
	トモエガモ(VU)		レンカク		
	ヨシガモ	タマシギ			
	オカヨシガモ	チドリ	ハジロコチドリ		
	ヒドリガモ		コチドリ		
	アメリカヒドリ		イカルチドリ		
	オナガガモ		シロチドリ		
シマアジ	メダイチドリ				
ハシビロガモ	ムナグロ				
ホシハジロ	ケリ				
キンクロハジロ	タゲリ				
スズガモ	シギ		キョウジョシギ		
ホオジロガモ			トウネン		
ミコアイサ		ヒバリシギ			
カワアイサ		オジロトウネン			
			アメリカウズラシギ		

科名	種名	科名	種名	
シギ	ウズラシギ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	
	ハマシギ	キツツキ	アリスイ	
	サルハマシギ		アオゲラ	
	エリマキシギ		アカゲラ	
	ツルシギ		コゲラ	
	コアオアシシギ		ヒバリ	ヒメコウテンシ
	アオアシシギ	ヒバリ		
	クサシギ	ツバメ	ショウドウツバメ	
	タカブシギ		ツバメ	
	キアシシギ		アカハラツバメ	
	イソシギ		ツバメ	
	ソリハシシギ		コシアカツバメ	
	オグロシギ		イワツバメ	
	ダイシャクシギ		セキレイ	ツメナガセキレイ
	チュウシャクシギ	ツメナガセキレイ		
	コシャクシギ(EX)	キタツメナガセキレイ		
	ヤマシギ	キセキレイ		
	タシギ	ハクセキレイ		
	チュウジシギ	ハクセキレイ		
	オオジシギ(NT)	ホオジロハクセキレイ		
セイタカシギ	セグロセキレイ			
ヒレアシシギ	ビンズイ			
ツバメチドリ	タヒバリ			
カモメ	ユリカモメ	ヒヨドリ		ヒヨドリ
	ハジロクロハラアジサシ	モズ		モズ
	クロハラアジサシ		アカモズ(NT)	
	アジサシ	レンジャク	キレンジャク	
	コアジサシ(VU)		ヒレンジャク	
ハト	キジバト	ツグミ	ノゴマ	
	アオバト		オガワコマドリ	
カッコウ	ジュウイチ		ルリビタキ	
	カッコウ		ジョウビタキ	
	ツツドリ		ノビタキ	
	ホトトギス		イソヒヨドリ	
フクロウ	トラフズク		トラツグミ	
	コミミズク		クロツグミ	
	オオコノハズク		アカハラ	
	アオバズク		シロハラ	
	フクロウ		ツグミ	
ヨタカ	ヨタカ		ウグイス	ウグイス
アマツバメ	ハリオアマツバメ	シマセンニュウ		
	ヒメアマツバメ	コヨシキリ		
	アマツバメ	オオヨシキリ		
カワセミ	ヤマセミ	メボソムシクイ		
	アカショウビン	センダイムシクイ		
	カワセミ	セッカ		

科名	種名	外来種	
		科名	種名
ヒタキ	コサメビタキ	カモ	カナダガン
カササギヒタキ	サンコウチョウ		コブハクチョウ
エナガ	エナガ	キジ	コジュケイ
ツリスガラ	ツリスガラ	ハト	ドバト
シジュウカラ	コガラ	オウム	オカメインコ
	ヤマガラ	インコ	セキセイインコ
	シジュウカラ		ホンセイインコ
	ワカケホンセイインコ		
メジロ	メジロ	チメドリ	ソウシチョウ
ホオジロ	ホオジロ	カエデチョウ	ベニスズメ
	コジュリン(VU)		ギンパン
	ホオアカ		ギンバラ
	コホオアカ		ギンバラ
	カシラダカ		キンバラ
	ミヤマホオジロ		ヘキチョウ
	ノジコ(NT)		ブンチョウ
	アオジ		
	クロジ		
オオジュリン	ハタオリドリ	テンニンチョウ	
アトリ	アトリ	8科14種(亜種除く)	
	カワラヒワ	8科16種(亜種含む)	
	マヒワ	麻機遊水地における稀少鳥・迷鳥	
	ベニマシコ	13科17種	
	コイカル	レッドデータブック掲載種数	
	イカル	絶滅危惧ⅠA類(EX) : 2科2種	
	シメ	絶滅危惧ⅡB類(EN) : 3科5種	
		絶滅危惧Ⅱ類(VU) : 7科9種	
ハタオリドリ	準絶滅危惧(NT) : 6科8種		
ムクドリ	コムクドリ	情報不足(DD) : 1科1種	
	カラムクドリ		
	ムクドリ		
カラス	カケス		
	オナガ		
	ハシボソガラス		
	ホシブトガラス		
44科200種(亜種除く)			
44科205種(亜種含む)			

「注」種名の斜字は亜種を示す



タマシギ科 タマシギ



クイナ科 ヒクイナ



サギ科 ヨシゴイ

麻機遊水沼周辺でも減少している野鳥

提供：小池正明氏

(4) 水生動物調査

水生動物の調査は平成12年2月16日(水)に2ページに挙げた8ポイントを対象に行った。

その結果、①～⑤ポイントは水深が平均10cm程と浅く、また、水温2℃～3.5℃、気温2.5℃と気象条件が悪いせいか採集できた個体数及び動物相は極めて少ない状況であった。

以下に水生動物結果一覧表を挙げる。

なお、調査に協力を得た南中柴上げ保存会会長他2名からこの地域の戦前、戦後の状況について聞き取り調査を行った。

水生動物調査結果一覧表

ポイント	無脊椎動物	魚類	摘要
①		モツゴ 2個体	水深 10cm 水温 2.5℃
②	アメリカザリガニ 2個体	モツゴ 6個体	水深 10cm 水温 2℃
③		モツゴ 17個体	
④		モツゴ 1個体	水深 10cm 水温 3.5℃ (ガマ自生地周辺)
⑤		モツゴ 1個体	
⑥		フナ 4個体 モツゴ 2個体	水深 70cm 水温 3℃
⑦	アメリカザリガニ 7個体 インドマキガイ 1個体	モツゴ 1個体	水深 30cm 水温 2.8℃
⑧	アメリカザリガニ 1個体	フナ(20cm) 1個体 モツゴ 2個体	(草が腐っているので魚が寄りつかないのではないか)

聞き取り調査の内容

Q：遊水地に昔生育していた主な植物は。

A：ヨシ、マコモの湿原で、コリヤナギも生育していた。マコモで盆のゴザを作り売った。オニバスはなかった。シオカラトンボ、オニヤンマも多く飛んでいた。

Q：賤機山にはどんな植物が見られたか。

A：赤松が多く生育していた。

臨齋寺の付近は、雑木林があった。その後(戦後)ミカン畑となってからは門屋地区にマキを貰いに行った。戦前のミカンは紀州ミカン(駿府公園)であった。

Q：この遊水地付近に田圃があったか。

A：田圃があり、その田圃はマグサの上にあったので、大水が出ると田圃は浮いて流されるため、木と縄で固定した。沼の半分以上は田圃であった。

7年1作と言われ、諏訪神社の祭礼はそのため7年に1回行われている。田圃では赤米を作っていた。

その他に蓮田があって収入のほとんどはレンコンであった。ヒシも生えていた。

Q：魚類ではどんなものがいたか。

A：淡水魚はほとんどいた。七曲川ではシジミが捕れ、ドジョウは沢山捕れた。缶詰一杯100円で売っていた。ザリガニはよくうでて食べたよ。今はザリガニも少なくなった。

カラスガイ、モエビもいた。

Q：野鳥ではどんなものがいたか。

A：カモ、バンがいた。カモ猟もやっていた。

調査の状況

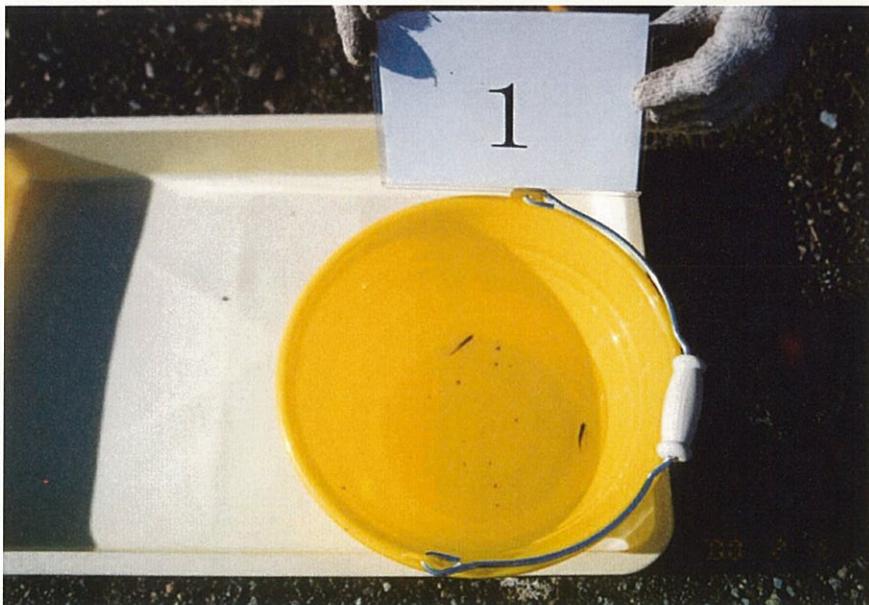
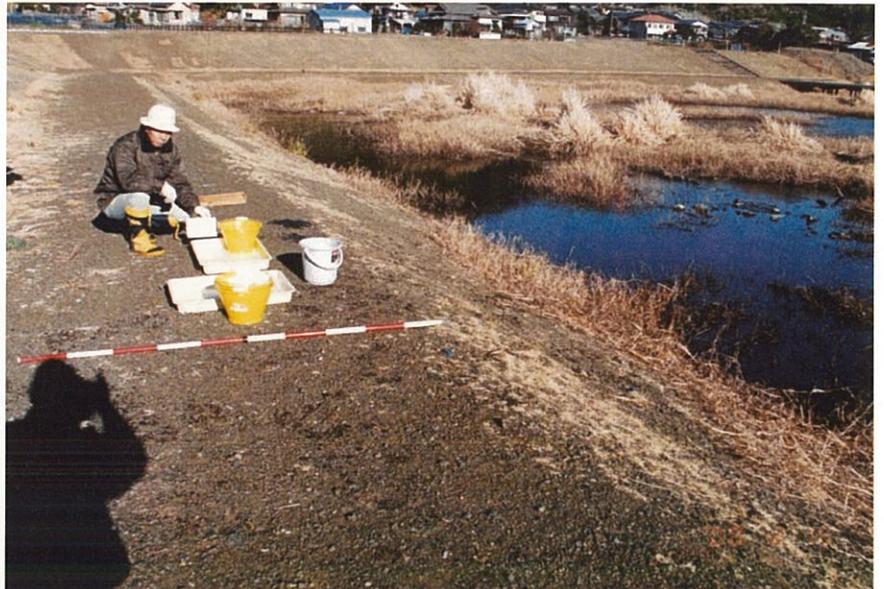
①ポイント



採集作業

- ・水深 10 cm
- ・水温 2.5℃

個体の確認作業



採集した個体

- ・モツゴ 2個体

②ポイント



採集作業

- ・水深 10 cm
- ・水温 2℃



個体の確認作業
水温測定作業

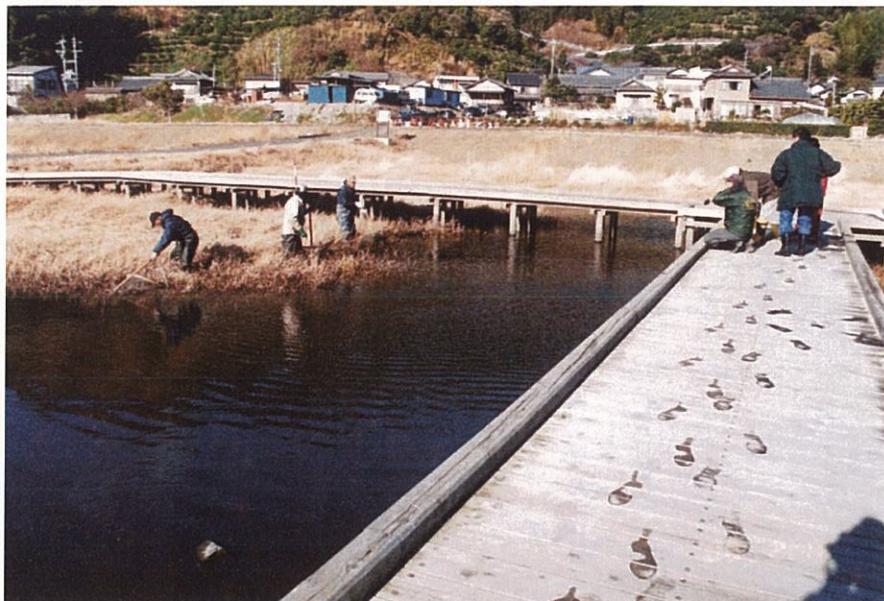


採集した個体

- ・モツゴ 6 個体
- ・アメリカザリガニ

2 個体

③ポイント



採集作業

- ・水深 10 cm
- ・水温 2℃



個体の確認作業



採集した個体

- ・モツゴ 17 個体

④ポイント



採集作業

- ・水深 10 cm
- ・水温 3.5℃



個体の確認作業



採集した個体

- ・モツゴ 1個体

⑤ポイント



採集作業

- ・水深 10 cm
- ・水温 3.5℃

個体の確認作業



採集した個体

- ・モツゴ 1個体

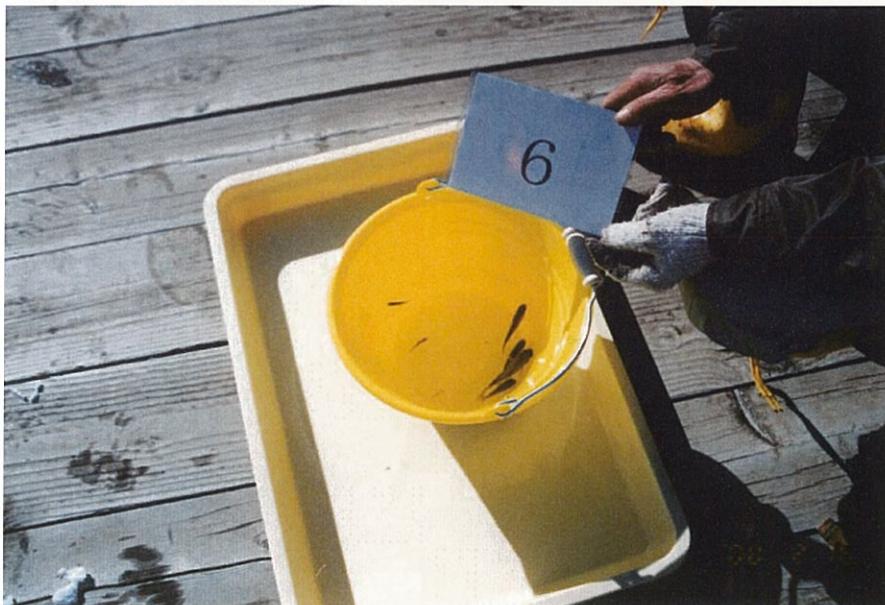
⑥ポイント



採集作業

- ・水深 70 cm
- ・水温 3℃

チクゴスズメノヒエに生息
する水生動物の確認作業
この中には水生動物は
見られない



採集した個体

- ・フナ 2個体
- ・モツゴ 2個体

⑦ポイント



採集作業

- ・水深 30 cm
- ・水温 2.8℃

個体の確認作業



採集した個体

- ・モツゴ 1個体
- ・アメリカザリガニ 7個体
- ・インドマキガイ 1個体

⑧ポイント



採集作業

- ・水深 30 cm
- ・水温 2.8℃



個体の確認作業



採集した個体

- ・フナ 1個体
- ・モツゴ 2個体
- ・アメリカザリガニ

1個体

調査ポイント⑦（ボードウォーク左側）とポイント⑧（同右側）は、水面を少し残してチクゴスズメノヒエが繁茂し、保全植物の生育地にまで生育域を広げている。



平成12年2月16日（水）撮影

○魚類調査

本調査は第1回の植物調査に併せ基本計画策定の基礎調査として7ポイントを対象に行われている。その結果、ヨシノボリなど魚類4種、モエビが確認されている。

魚 類

科 名	種 名
ハゼ	ヨシノボリ
コイ	ゲンゴロウブナ
	モツゴ
タイワンドジョウ	カムルチー

エ ビ 類

科 名	種 名
テナガエビ	テナガエビ
	モエビ

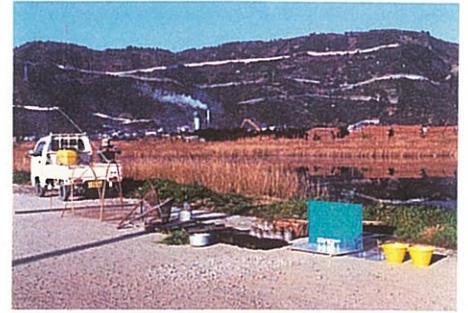
魚類調査箇所図

魚類一覧表

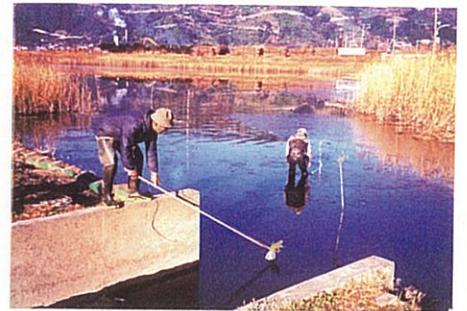
区画番号	魚類名
№1	ヨシノボリ ゲンゴロウブナ モツゴ モエビ テナガエビ
№2	ゲンゴロウブナ モツゴ
№3	モツゴ
№4	ゲンゴロウブナ モツゴ
№5	ゲンゴロウブナ モツゴ テナガエビ
№6	カムルチー ゲンゴロウブナ モツゴ
№7	モツゴ
合計	6種類



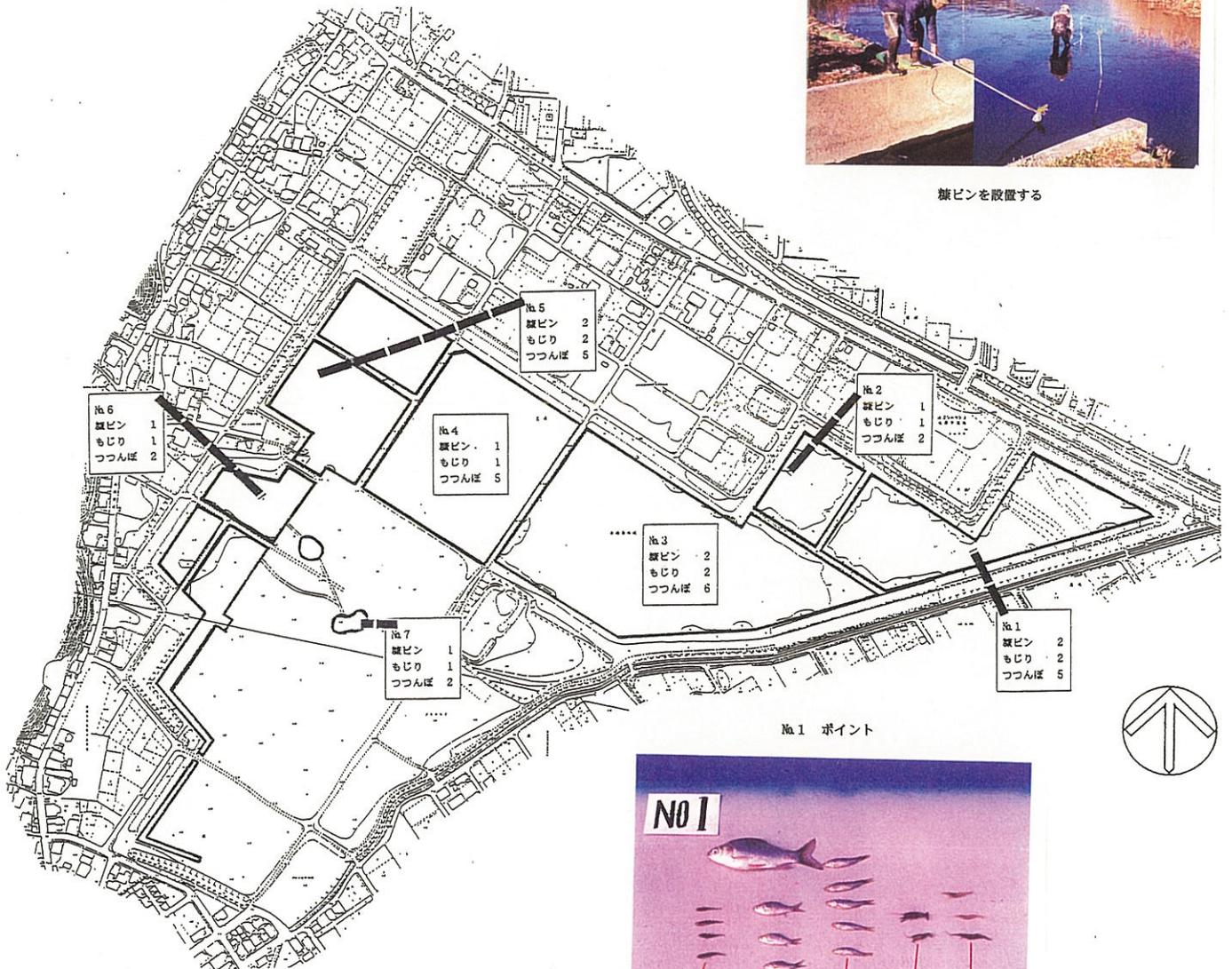
ゴウガイをつぶし、モジリの中へ入れる



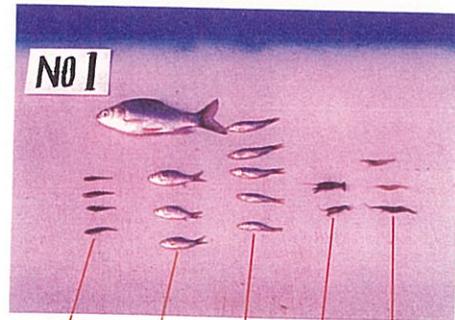
捕獲用道具
四ツ手網、ボッタイ、ツツボ、モジリ、糠ビン



糠ビンを設置する



№1 ポイント



ヨシノボリ
ゲンゴロウブナ
モツゴ
モエビ
テナガエビ



7. オニバスとオオオニバス

(1) オニバス生育の経緯

巴川をきれいにしようと、静岡県、静岡・清水両市の行政担当者と地域住民代表者で構成された「巴川流域快適環境づくり協議会」の活動の一つとして「巴川水と緑のキャンペーン」が企画され、平成元年度より毎年第4工区を会場に開催された。

本工区をはじめ、かつての麻機低地には現在レッドデータブックに掲載されているオニバスが生育し、この状況は伝説「沼のばあさん」にも法器草として紹介されている。

また、協議会発足の頃から自然保護運動が世論として高まりをみせ、この様子は静岡新聞（平成3年8月28日発行）に『種の保存へ「執念」燃やすオニバス』が掲載されていることからもうかがえる。

協議会では、このような世論を背景にオニバスの復元が話題となって、まず、静岡県下の自生地を調査することとなった。

調査の結果、磐田市の桶ヶ谷沼で自生していることが分かり、地元の磐田市役所に種子譲渡の要請をしたところ、当時桶ヶ谷沼でトンボの観察などの活動しておられた野路の会会長細田昭博氏が紹介された。

そこで、勤務先の浜松市立科学博物館に細田会長を訪ね、種子譲渡のご相談をした。その数日後、細田会長が種子10粒程を静岡市役所までお届けくださった。

この種子は平成3年4月に開催されたキャンペーンのテーマに掲げ、キャンペーンに参加した麻機・城北両校の児童によって、会場であった本工区の七曲川沿いの池底に蒔いた。しかし、この種子からは発芽はみられなかった。

この事を知った静岡水生湿生植物研究会代表の大坪篤次氏が中心になって、県下の自生地を探索され、小笠郡大須賀町の普門寺から約50粒の種子を入手され、研究会会員の手によって先の場所近くに蒔かれた。

その後、生育域を拡大し、平成9年8月頃にはほぼ全域でみられるようになった。



播種地
(七曲川沿い)



同 上
平成6年8月撮影



オニバスの生育状況
(前頁の場所)

平成6年9月撮影



同 上
(水上ステージ付近)
平成9年8月18日撮影



同 上
(麻機湿原)

平成10年9月13日撮影

なにか新しい風、NEWS 5 & 4
Next Exciting Wind of Shizuoka

静岡新聞創刊50周年・SBS開局40周年
WWFJ募金活動応援キャンペーン

自然の命いまでも

ふるさとヒューマン・エコロジー
シリーズ

種の保存へ「執念」燃やすオニバス。

静岡新聞社・SBS静岡放送は創刊50周年、開局40周年を記念し、「生物の多様性を守ろう」と訴えるWWFJの募金活動支援キャンペーンを展開しています。県内の絶滅の危機にひんしている野生生物の状況を報告している特集シリーズ「自然の命いまでも〜ふるさとヒューマン・エコロジー〜」はその支援キャンペーン企画の一つです。
第6回は野生生物の中でも近年、生育地である池沼の減少や水質汚濁などで種の存続が危ぶまれている水生植物の一つ「オニバス」を中心にレポートします。

水質汚濁や埋め立てで生育地激減

「オニバス」を知っていますか。池や沼に大きな葉を広げて、ちょうど今季節に葉を破って花を咲かせます。花は鶏のトサカに似た形で、神秘的な濃い紫色をしています。日本各地の熱帯植物園などでよく見かける南米産の「オオオニバス」は、仲間の一つです。日本原産のオニバスは関東と新潟以西に自生し、県内では主に西部地域の池や沼、水路に育つ代表的な水生植物です。こんなに大きな葉を広げても一年生の水草で、スイレン科オニバス属に属します。

照葉樹林域の池や沼に繁茂する特性があり、発芽した葉は水面下で線形、十字形、そしてホコ形から楕円形と変化しながらやがて円形になり、水面に浮かびます。葉の大きさは、直径1.5メートルにも及ぶものもあり、葉の面にはとげが密生し、8月から9月にかけて花を咲かせます。植物の中でも池や沼、湿地の植物たちは、環境の影響を受けやすい「弱い植生」の植物たちで、それだけに開発による環境変化の影響をもろに受けます。オニバスも水質汚濁や埋め立てなどで生育に適する池や沼地が急速に失われ、最近では県内でも見かけることがめっきり少なくなり、絶滅の危機にさらされています。

池沼や湿地に生きる植物の保護を

管内のわずかに点状に残されている池沼や湿地、谷戸の奥に冷水がしみだすわずかな環境に細々と生き続ける植物があります。ミミカキグサ、モウセングサなどの食虫植物やオニバス、シラマホシクサなどはその代表例で、現在とても貴重な存在となっています。このような植物の生育に適した環境は、宅地化や生活用水、除草剤の流入で激減の一途をたどっているのが現状です。
多様な自然こそ、私たちに欠かすことのできません。絶滅の危機にひんしている植物に対して、私たちに与えられた義務は、これらの植物の調査を早急に行い保護活動を進めることです。残された美しい自然環境とそこに育つ多種多様な生物を引き継いで行きたいものです。



絶滅の危機 県内の水生植物「オニバス」

WWFJの活動
WWFJは91年度の保護助成事業の一つに藤前干潟の保護活動を指定している。藤前干潟は、伊勢湾に残された唯一の泥質干潟で名古屋市港区の庄内川、新川、日光川の河口部に表出しその広さは約120㍓、70種、数万羽の水鳥が飛来する世界的にも貴重な渡り鳥の渡来・中継地となっている。しかし、名古屋市はこの大部分を埋め立て、ゴミの最終処分場にする計画を進めている。この事業では、①周辺の住民に対する干潟保存の重要性の認識を深めることを最重点においた啓蒙普及 ②名古屋市当局に対する干潟の重要性のアピール、市内のゴミ減量、再資源化の徹底の要望 ③生態系調査など干潟を「鳥獣保護区」として保全するための活動を行い藤前干潟の保護を訴えて行く。

WWFJ 募金

貴重な動植物を守ろう

救援基金を募る!

WWFJに全額寄託

静岡新聞社・SBS静岡放送はキャンペーン期間中、救援基金を募ります。募金はWWFJ(世界自然保護基金日本委員会)に全額寄託いたします。
【受付期間】 平成3年12月31日(火)まで。

【受付窓口】 静岡新聞社・SBS静岡放送事務局 (静岡市登呂3-1-1 ☎054(284)8921)および支社・支局
救援金を寄せていただいた方々のお名前はWWFJ当局にお知らせするとともに、静岡新聞紙上に掲載します。
※当企画の協賛社である鈴与グループもWWFJへの募金活動に協力しています。

オニバス

10年ぶり

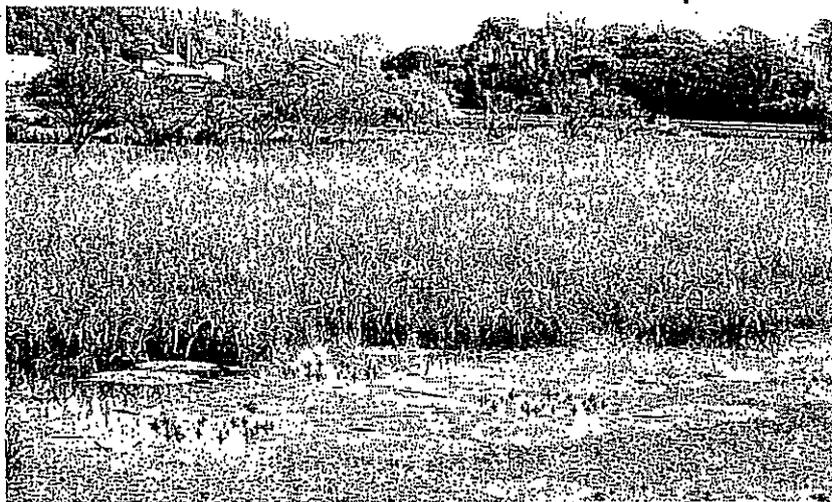
県の天然記念物に指定されている小笠郡大須賀町の中新井池に自生する大型の一年草の水草オニバスが今年十年ぶりに復活、鮮やかな紫色の花を咲けた。町では天然記念物指定の解除を検討していただけに大喜び。しかし「マコモ、ヨシなどの繁殖力の強い水草が池全体を覆いはじめ、オニバスは絶滅の危機にある。このオニバスを見守ってきた元横須賀高校教諭の遠山順一さん(66)掛川市大池Ⅱは「このままでは危険な状態。ぜひ何らかの対応を」(以下略)と話している。

マイタウン'92

小笠山周辺 移動編集局

横須賀高校に勤務していた遠山さんが昭和四十六年に群生している中新井池のオニバスを発見、既に当時も県内では群生しているオニバスは少なく、町に保護を訴えた。町でも積極的に保護を続け、毎年花を咲かせた。四十八年九月に

大須賀町の中新井池



10年ぶりに復活したオニバス。大須賀町中新井池で

水草覆いなお。ピンチ急がれる 抜本対策

県が天然記念物に指定。オニバスが見られなくなり、は掛川市内の池に自生して生態系を壊すとの配慮からで眠り、突然花を咲かせる。遠山さんが横須賀高校を離れ町では六十二年に遠山さんいたオニバスの種子を町に移植は行われなかった。ことあるので、町では毎回何らかの対応を検討して



オニバスの花。大須賀町中新井池で(昭和55年8月撮影)

咲いた!

草刈りを行っている。

その結果、今年十年ぶりにオニバスが目覚めた。今年咲いたからといって来年も咲くとは限らない。マコモなどを排除するために池をしょんせつするなどの抜本的な対策を立てなければ」と遠山さん。

オニバスはほぼ円形の葉にびしりと生着するものもある。八、九月ごろに紫の花を咲け、現在は、花が落ちて、種子を含んだ球状の袋に包まれている。復活したとはいえ、今年も以前のよ様な群生には程遠く、十前後のオニバスが見られるのみ。遠山さんは「このままでは、後数年で池全体がマコモなどに覆われ、池ではなくなってしまう。オニバスは絶滅してしまつて訴える。町教育委員会でも「貴重な町の財産。水面を広げるなど何らかの対応を検討していきたい」と話している。

(2) オオオニバス生育の経緯

熱帯植物栽培の経験がある大坪会長は在来種のオニバスの復元に併せ「花と香りの素晴らしいアマゾン原産のオオオニバスを屋外で育て遊水地を訪れる人達に見てもらっては」と、南伊豆町の東京大学農学部付属演習林樹芸研究所を訪ねられ、一株入手された。

しかし、オオオニバスは一年草で種子の結実は難しく、次年には再び見る事が出来ないため、全国の植物園等に打診され、北海道大学農学部付属植物園で栽培されていた種子を入手し、毎年自宅で栽培し7月中旬の気温と水温の上昇に併せて本工区内に植え付けられている。美しい花は写真愛好家やここを訪れる多くの人達の話題となっている。

参 考

平成4月8月作成

件 名)	オオオニバス (アマゾン産) の花が咲きました
	<p>静岡市の北東部に位置する麻機多目的遊水地 (面積86 ha) は、巴川総合治水対策の一つとして、昭和49年度より巴川の洪水を軽減するため北部土地改良区内の第3、第4工区内に、一時的に貯水する整備が静岡土木事務所によって進められています。</p> <p>遊水地の中でも整備の進んでいる、第4工区 (31 ha) は水辺の所々にアシやオギが繁茂し、四季をつうじて数多くの野鳥が生育し県下有数のバードウォッチングの場としても知られています。</p> <p>また、日曜祭日には遠くは関東地方からも釣り人が訪れ自然に親しむ姿がみられます。</p> <p>この地域は、伝説・沼の婆さんでも知られ、この伝説の中にオニバス (すいれん科) が生育していたと紹介されています。</p> <p>静岡県、静岡・清水両市の関係者の参加によって、巴川をきれいで親しみのある川にしようと平成元年4月に「巴川流域快適環境づくり協議会」が発足し、現在、流域住民の協力により各種の事業が展開されています。</p> <p>協議会ではこの5月15日に、全国的規模で開催された総合治水推進週間に併せてこの工区内の平柳地先を会場に「水辺のコンサート」を開催しました。</p> <p>この時のセレモニーとして、磐田市にある桶ヶ谷沼の自然保護活動をしている「野路会」から贈られたオニバスの種子を、参加した麻機小学校と城北小学校の児童の手によって植え付けました。しかし、まだ葉は水面にみられません。</p> <p>一方、昨年9月に北海道大学農学部付属植物園の好意により贈られたアマゾン産のオオオニバスの種子は地元の造園家・大坪篤次氏により5株が育てられ、この地域での栽培が可能かどうか工区内の草場地先に試験的に植え付けました。</p> <p>苗は夏日をむかえ順調に育ち、直径約1.5mほどの丸い葉を水面のあちこちに浮べ、8月15日にはその中の1株がピンク色の花を2花咲かせました。残りの4株も8月の下旬頃までに順次花を咲かせると期待しています。</p> <p>この地は、隣接する菖蒲園が6月にオープンし約2万人が訪れるなど、市民に大変親しまれるようになってきました。</p> <p>現在、土木事務所では治水事業に併せ、水辺に自然を復元しようとシラカシ、ヤブツバキを植え付けるなど緑化工事も行っています。</p>



オオオニバスの手入れ
ふれあい広場付近



オオオニバス
(同上)



オオオニバスとカワセミ
(同上)

平成8年10月16日撮影

オオオニバスを撮影する
写真愛好家たち (同上)





野鳥の楽園として知られる静岡市・麻機多目的遊水地の一角に、アマゾン産のオオオニバスが花を咲かせ、話題を呼んでいる。オオオニバスはスイレン科の水生多年草。地元

の愛好家がつくる静岡水生・湿生植物研究会(大坪篤次代表・会員八人)が試験栽培しているもので、今年六月に苗を植え付け、現在五株が生育中。

◆野鳥の楽園に
オオオニバス◆

花と葉がシンクロ

周縁がたらい状にせりあがった独特の葉は、直径一・八センチもあり、十二センチほどの花が次々と開花している。夕方、白い花を咲かせたあと、翌朝いったんしぼみ、二日目の夕方、今度はピンクの花となって再び開花、のち水没する。大坪代表の話では、霜の降りるころまで楽しめるという。

同遊水地は、興・静岡市・清水市と地域住民が一体となって、快適環境づくりを行っている。

交通◆静岡鉄道・大浜
麻機線・麻機行き「谷久保」下車。
2色の花を咲かせるオオオニバス
◆静岡市麻機

8. 後記

(1) 静岡植物研究会

会長 湯浅 保雄氏

①本調査について

植物相の調査としては時期が悪く、また調査期間も短すぎたので、改めて、一年を通じた調査が必要である。

また、これから麻機遊水地の植生を適正に管理するために、以下の項目についても調査する必要がある。

- 1) 植生調査（植生遷移、地下水位等との関係について）。
- 2) 耕耘や草刈り等による植生の変化について。
- 3) 植生と生息昆虫の関係について（季節別の生息密度調査）
- 4) チクゴスズメノヒエの抑制方法について

②麻機遊水地の将来について

- 1) 遊水地は放置すれば、ほとんどアシの茂る湿地になってしまう。そこで良好な環境を維持するためには、植生を草刈りや耕耘等で管理せねばならない。それらの植生管理は大変な作業量になるが、出来るだけ市民のボランティアで行うのが望ましい。

具体的には、参加団体を募り、各団体ごとに担当箇所を決め植生管理を委託する。担当場所の割り当てや管理方法は、関係する役所と参加団体とで作る協議会で決める。また、団体は遊水地での不法行為やゴミの不法投棄等の取り締まりにも協力する。

- 2) 遊水地全体は、治水機能を損なわない範囲内で湿地生態園として利用できるよう管理をする。

そこには、ザリガニ・ヤゴ・ドジョウ採り等が出来る水辺や水田を作り、水田は湿生植物育成と稲作の体験学習にも供するものとする。

定期的に自然観察会（鳥類、昆虫、水生昆虫・甲殻類、植物別）も行いたい。

- 3) 自然展示館、野鳥観察小屋、管理用道具の保管庫を兼ねた治水展示館をつくりたい。
- 4) 定期的に、治水と湿地環境保全に関するシンポジウム等も開催する。

(2) 静岡昆虫同好会

代表 高橋 真弓氏

①本調査について

昆虫類については、調査期間がごく限られていたために実質的調査がほとんど行われず、本調査以前の調査結果を利用せざるをえなかった。さいわい静岡昆虫同好会会員の伴野正志氏による1983年以來の調査があるので、これを基礎として報告書を作成した。

調査の行われた昆虫類の範囲は、主としてチョウ目の蝶類とトンボ目であり、他の分野の昆虫類はほとんど調査が行われていないので、今後調査を継続して解明していくことが必要である。また、調査の行われている分野でも、年ごとの調査結果を比較検討することにより麻機遊水地の昆虫相の特徴をいっそうよく理解できるものと思う。

②麻機遊水地の将来について

麻機遊水地を自然公園にするためには、まず動植物の生活に考慮した自然度の高い原始的自然に近いものを復元する必要がある、そのために絶えず専門家の意見を取り入れて復元工事を行うことを望む。この場合、帰化植物やライギョのような本来の自然にふさわしくないものは除去すること。さらにチクゴスズメノヒエのように全体のバランスをくずして増殖する傾向のある植物についても、一定地域以上に広がらないようにすることが必要と考える。

湿地化していないところにはクヌギ、コナラなどを植栽して昆虫類（甲虫、チョウなど）を誘引して子どもたちの虫とりの場をつくったり、またチョウ類の幼虫の食樹となるカラスザンショウ、キハダ、コクサギや成虫の吸蜜植物となるツツジ、ネムノキ、クサギなどを植え、チョウ類を集める試みも考えられる。

一方、自然観察に訪れた人たちの憩いの場としての売店（遊水地の絵はがきなども売る）や、オオオニバスなどを植栽した池などもよく、また自然に影響を与えない条件で適当な広さの駐車場も必要と思う。

(3) (財) 日本野鳥の会 静岡支部

支部長 三宅 隆氏

①本調査について

今回、麻機遊水地の調査を依頼され、支部の個人が継続調査してきたデータを中心に提出したが、今後の保護政策にぜひ役立ててもらいたい。

ただ、自然保護は全ての動植物を対象とすべきであり、今回の資料調査においては欠落する対象群も多いので、再考の必要性がある。期間的にも短く問題がある。

今後は、現地調査を重視し、年間を通してより詳細な調査実施の継続が必要である。

②麻機遊水地の将来について

麻機遊水地は、市街地にも近く、静岡市周辺では最高の自然観察の場となっている。さらに、200種類を超える野鳥の飛来地として、県下ばかりでなく、国内でも有名となっている。この県民の財産とも言えるこの地を将来にわたって保護整備してもらいたい。

・ 工事の短縮と連絡

現状の工事方法は、長期にわたり、掘ったり埋めたりと工事による野鳥への影響も大きい。影響を最小限に留めるよう、計画的、短期的に工事をすべきである。さらに、工事にあたっては、当会への連絡と相談をして欲しい。

・ 県民の憩いの場、自然観察の場の確保

開発により、自然に親しめる場所は減少の一途をたどっている。数少ない憩いの場として、この地を保護、整備してもらいたい。そして、人ばかりでなく野鳥を含めた動物達が安心して棲める場所にしてほしい。

・ 自然保全のための管理

保護するという事は、ほっておけばいいという事ではない。植物、動物が恒久的に共存するためには、人の管理が必要である。特に水生植物については、単独種だけが繁茂しないよう、また外来種が繁茂しないように、除去も含めて、計画的な管理が必要である。また、外来の魚が固有の魚を駆逐しており、釣りの禁止と共に、テグスの除去、外来魚の捕獲処理を実施してもらいたい。

放置されるゴミについても、計画的な処理が必要である。

当会としても、これらの施策について協力する用意はある。

・ 環境教育の充実

この管理された自然を利用して、市民に自然の美しさ、自然の大切さを知らしめる事が大切である。排水問題、ゴミ問題、大気汚染問題など、動植物やこの環境を通して訴え、教育していければ、有効に活用できるのではないか。

- ・ 減少する野鳥種の保全
麻機沼周辺でも、近年タマシギ、ヒクイナ、ヨシゴイ等の観察が急減している。この理由は、沼の開発もさることながら、周辺の田んぼやはず田の開発、減少等の影響も考えられる。遊水地だけの保護でなく、周辺を含めた野鳥の生息環境保護に努めてもらいたい。
- ・ 調査の継続とその有効活用
調査は継続することに意味がある。定期的な調査の実施と、そこから把握できる影響等を、保護に役立てて欲しい。

③その他

第4工区が完成すると、スポーツ関係以外では、駐車が規制されると聞くが、自然愛好者の為にも、駐車を許可してもらいたい。バードウィークに実施する一般公募の探鳥会では、200人近い市民が集まります。毎月の探鳥会と調査にも駐車が必要です。配慮をお願いしたい。

レッドデータブックカテゴリー (環境庁, 1997)

1994年12月、IUCNは、新たな Red List Categories を採択した。カテゴリー改訂作業は、1989年からIUCNの種の保存委員会(SSC)を中心に進められた。新カテゴリーの特徴は、

①今までの定性的な要件とは異なり、絶滅確率等の数値基準による客観的な評価基準を採用していること

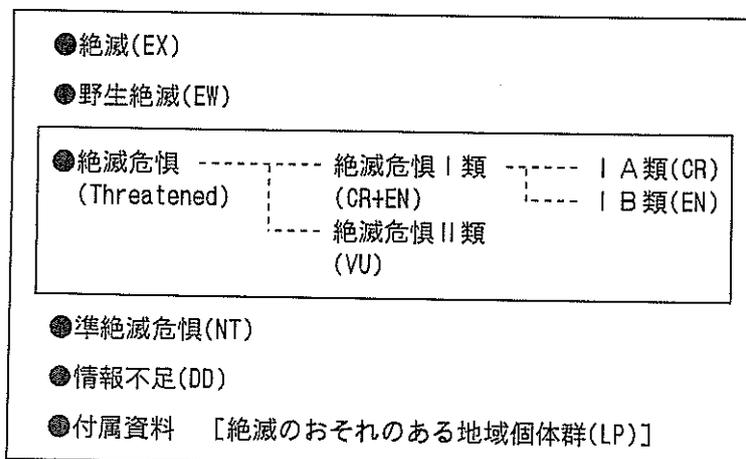
②絶滅のおそれのある種を Threatened でくくり、その中に Critically Endangered、Endangered、Vulnerableを設定していること、

等である(1996年10月に採択された IUCN Red List of Threatened Animals は、この新カテゴリーに基づく最初のレッドリストである)。

今般、植物版レッドデータブックの策定及び動物版レッドデータブックの改訂に当たり、この新カテゴリーの扱いに関して検討を行った。数値基準による客観的な評価は今までの定性的な評価よりも好ましいこと、この新カテゴリーが今後世界的に用いられていくと考えられることから、基本的にこのカテゴリーに従うべきとされたが、数値的に評価が可能となるようなデータが得られない種も多いことから、今までの「定性的要件」と、新たに示された「定量的要件」(数値基準)を併用し、数値基準に基づいて評価することが可能な種については、「定量的要件」を適用することとした。

なお、定性的要件と定量的要件は、必ずしも厳密な対応関係にあるわけではないが、現時点では併用が最善との結論に至ったものである。

IUCN新カテゴリーに準拠して策定したカテゴリーは以下の通りである。

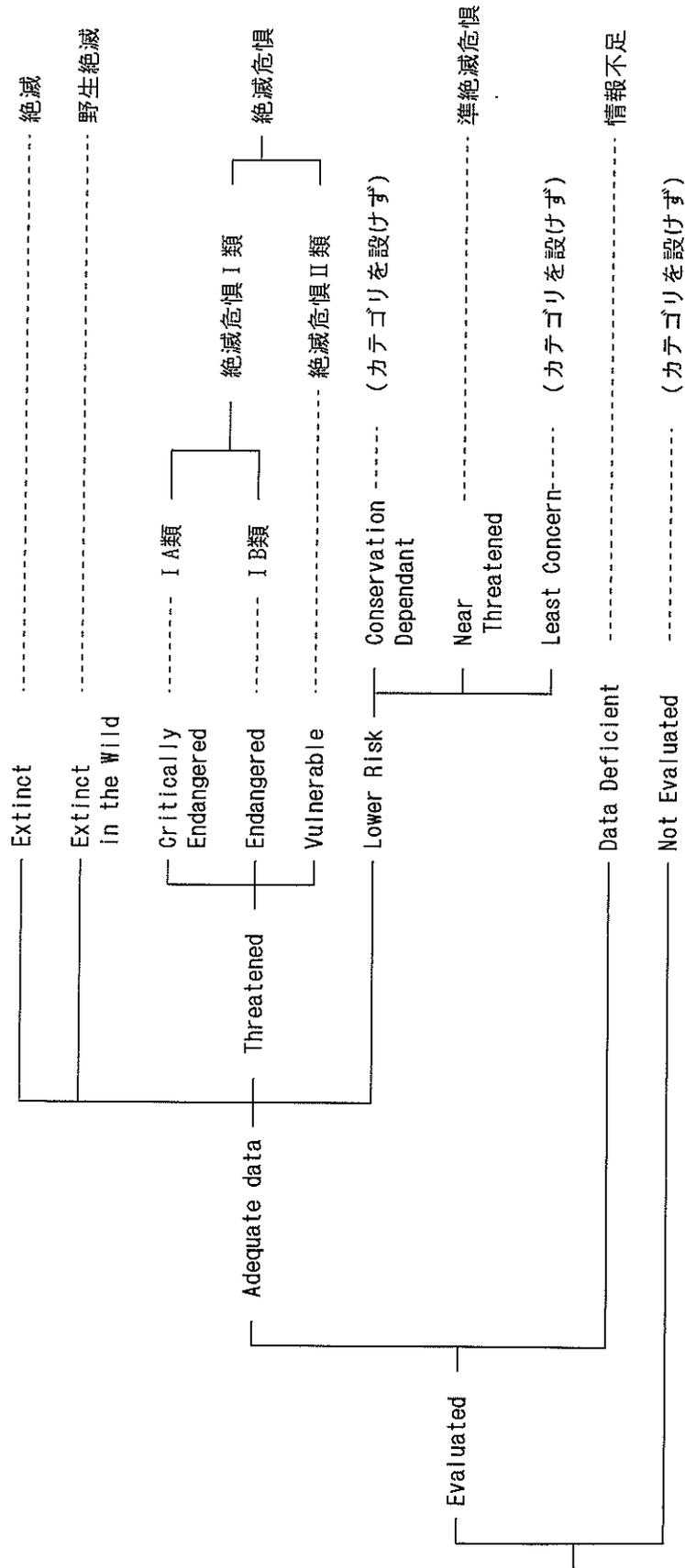


(注) 絶滅危惧 I 類のうち、数値基準によりさらに評価が可能な種については絶滅危惧 I A 類及び絶滅危惧 I B 類として区分した。

■新RDBカテゴリ（IUCN版との対応表）

IUCN RDBカテゴリー

日本版RDBカテゴリー



●付属資料 [絶滅のおそれのある地域個体群]

■ カテゴリー定義

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 (注1)</p>	<p>過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p>	
<p>野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種</p>	<p>過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。</p> <p>②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。</p>	
<p>絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">T H R E A T E N E D</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。</p> <p>②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。</p> <p>③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>⑤それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。</p>	<p>絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR)</p> <p>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p> <p>絶滅危惧 I A 類 (CR)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少がみられる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間(注2)を通じて、80%以上の減少があったと推定される。 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。 <p>B. 出現範囲が100km²未満もしくは生息地面積が10km²未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生息地が過度に分断されているか、ただ1カ所の地点に限定されている。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。 <p>C. 個体群の成熟個体数が250未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に25%以上の継続的な減少が推定される。 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度に分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。

(注1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(注2) 最近10年間もしくは3世代：1世代が短く3世代に要する期間が10年未満のものは年数を、1世代が長く3世代に要する期間が10年を超えるものは世代数を採用する。

■ カテゴリー定義

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D	絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN) I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	D. 成熟個体数が50未満であると推定される個体群である場合。 E. 数量解析により、10年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が50%以上と予測される場合。 絶滅危惧 I B 類 (EN) A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定される。 2. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 B. 出現範囲が5,000km ² 未満もしくは生息地面積が500km ² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。 1. 生息地が過度に分断されているか、5以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。 C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わった場合。 1. 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度の分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。 D. 成熟個体数が250未満であると推定される個体群である場合。 E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。

■ カテゴリー定義

区分及び基本概念		定性的要件	定量的要件
絶滅危惧	<p>絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</p>	<p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、20%以上の減少があったと推定される。 2. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、20%以上の減少があると予測される。 <p>B. 出現範囲が20,000km²未満もしくは生息地面積が2,000km²未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、10以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。 <p>C. 個体群の成熟個体数が10,000未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10年間もしくは3世代のどちらか長い期間内に10%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度に分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。 <p>D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が1,000未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。</p> <p>E. 数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合。</p>
THREATENED	<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> a 個体数が減少している。 b 生息条件が悪化している。 c 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d 交雑可能な別種が侵入している。 	

■ カテゴリー一定義

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <p>a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている</p>	

● 付属資料

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <p>① 生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見ただけで絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ② 地方型としての特徴を有し、生物物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。</p>	

平成11年度〔第11-K2461-01号〕
二級河川巴川（麻機遊水地）下水道関連特定治水施設
整備（総合治水）工事に伴う動植物実態調査業務委託

資料編（目録）

平成12年3月

静岡県静岡土木事務所

吉田測量設計株式会社

資料編（目録）

	頁
1. 植物目録 静岡植物研究会 会長 湯浅 保雄氏	1
2. 昆虫類目録 静岡昆虫同好会 代表 高橋 真弓氏	12
3. 鳥類目録 （財）日本野鳥の会 静岡支部	19

植 物 目 録

平成5年12月、平成7年6月、平成9年10月29日、平成10年10月11日の調査による。

静 岡 植 物 研 究 会

会 長 湯 浅 保 雄 氏

EQUISETALES トクサ目

EQUISETACEAE トクサ科

Equisetum arvense Linn. スギナ

Equisetum ramosissimum Desf. イヌドクサ

ISOETALES ミズニラ目

ISOETACEAE ミズニラ科

Isoetes japonica A. Br. ミズニラ 湿生植物

FILICALES シダ目

CERATOPTERIDACEAE ミズワラビ科

Ceratopteris thalictroides Brongn. ミズワラビ 湿生植物

SALICALES ヤナギ目

SALICACEAE ヤナギ科

Salix gilgiana Seem. カワヤナギ 湿生植物

URTICALES イラクサ目

ULMACEAE ニレ科

Celtis sinensis Pers. var. *japonica* Nakai エノキ

URTICACEAE イラクサ科

Boehmeria nippononivea Koidz. クサマオ

POLYGONALES タデ目

POLYGONACEAE タデ科

Polygonum foliosum H. Lindb. var. *paludicola* Kitam. ヤナギヌカボ 湿生植物

Polygonum hydropiper Linn. ヤナギタデ 湿生植物

Polygonum nodosum Pers. オオイヌタデ

Polygonum longisetum De Bruyn イヌタデ 史前帰化植物

Polygonum maackianum Regel サデクサ 湿生植物

Polygonum nipponense Makino ヤノネグサ 湿生植物

Polygonum perfoliatum Linn. イシミカワ 史前帰化植物

Polygonum pubescens Bl. ボントクタデ 湿生植物 史前帰化植物

Polygonum sieboldii Meisn. アキノウナギツカミ 湿生植物

Polygonum hastato-auriculatum Makino ホソバノウナギツカミ 湿生植物

Polygonum taquetii Leveille ヌカボタデ 湿生植物

Polygonum thunbergii Sieb. et Zucc. ミゾソバ 湿生植物

Polygonum arenastrum Boreau ハイミチヤナギ 帰化植物。ヨーロッパ～アジア大陸原産

Polygonum cuspidatum Sieb. et Zucc. イタドリ

Rumex acetosa Linn. スイバ 史前帰化植物

Rumex conglomeratus Murr. アレチギシギシ 帰化植物 ヨーロッパ～アジア原産

Rumex crispus Linn. ナガバギシギシ 帰化植物 ヨーロッパ～アジア原産

Rumex japonicus Houtt. ギシギシ

CENTROSPERMAE アカザ目

NYCTAGINACEAE オシロイバナ科

Mirabilis jalapa Linn. オシロイバナ 帰化植物 南アメリカ原産

CARYOPHYLLACEAE ナデシコ科

Silene armeria Linn. ムシトリナデシコ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Stellaria media Villars コハコベ 帰化植物 広範囲分布種

Stellaria neglecta Weihe ハコベ 史前帰化植物

CHENOPODIACEAE アカザ科

Chenopodium album Linn. シロザ 帰化植物、ヨーロッパ～アジア原産

Chenopodium ambrosioides Linn. ケアリタソウ 帰化植物、南アメリカ原産

AMARANTHACEAE ヒユ科

Achyranthes fauriei Lev. et Van. ヒナタイノコズチ

Alternanthera nodiflora R. Br. ホソバツルノゲイトウ 帰化植物、

Amaranthus patulus Bertol. ホソアオゲイトウ 帰化植物、南アメリカ原産

Amaranthus retroflexus Linn. アオゲイトウ 帰化植物、熱帯アメリカ～北アメリカ原産

RANUNCULALES キンポウゲ目

RANUNCULACEAE キンポウゲ科

Clematis terniflora DC. センニンソウ

Ranunculus cantoniensis DC. ケキツネノボタン 湿生植物

Ranunculus quepaertensis Nakai var. *glaber* H. Boiss. キツネノボタン 湿生植物

NYMPHAEACEAE スイレン科

Euryale ferox Salisb. オニバス 水生植物、栽培植物

Nelumbo nucifera Gaertn. ハス 水生植物

PAPAVERALES ケシ目

PAPAVERACEAE ケシ科

Corydalis incisa Pers. ムラサキケマン

CRUCIFERAE アブラナ科

Brassica juncea Czern. et Coss. セイヨウカラシナ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Cardamine flexuosa With. タネツケバナ 湿生植物、史前帰化植物

Lepidium virginicum Linn. マメグンバイナズナ 帰化植物、北アメリカ原産

Rorippa indica Hiern. イヌガラシ

Rorippa islandica Borbas スカシタゴボウ 湿生植物

ROSALES バラ目

SAXIFRAGACEAE ユキノシタ科

Penthorum chinense Pursh タコノアシ 水生植物

ROSACEAE バラ科

Duchesnea chrysantha Miq. ヘビイチゴ

Potentilla kleiniana Wight et Arnott オヘビイチゴ

Rosa multiflora Thunb. ノイバラ

Rubus hirsutus Thunb. クサイチゴ

LEGUMINOSAE マメ科

Aeschynomene indica Linn. クサネム 湿生植物

Desmodium paniculatum DC. アレチヌスビトハギ 帰化植物、北アメリカ原産

Glycine soja Sieb. et Zucc. ツルマメ

Lespedeza cuneata G. Don. メドハギ

Pueraria lobata Ohwi クズ

Trifolium dubium Sibth. コメツブツメクサ 帰化植物、ヨーロッパ～西アジア原産

Trifolium repens Linn. シロツメクサ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Vicia sepium Linn. カラスノエンドウ

Vicia tetrasperma Schreb. カスマグサ 史前帰化植物、ヨーロッパ原産

GERANIALES フウロソウ目

OXALIDACEAE カタバミ科

Oxalis corniculata Linn. カタバミ 史前帰化植物

Oxalis corymbosa DC. ムラサキカタバミ 帰化植物、南アメリカ原産

GERANIACEAE フウロソウ科

Geranium carolinianum Linn. アメリカフウロ 帰化植物、北アメリカ原産

EUPHORBIACEAE トウダイグサ科

Acalypha australis Linn. エノキグサ 史前帰化植物

Euphorbia maculata Linn. オオニシキソウ 帰化植物、北アメリカ原産

RHAMNALES クロウメモドキ目

RHAMNACEAE クロウメモドキ科

Zizyphus jujuba Mill. ナツメ 逸出植物

VITACEAE ブドウ科

Ampelopsis brevipedunculata Trautv. ノブドウ

VIOLALES スミレ目

VIOLACEAE スミレ科

Viola betonicifolia Smith アリアケスミレ

Viola verecunda A.Gray ツボスミレ

ELATINACEAE ミゾハコベ科

Elatine triandra Schk. イヌミゾハコベ 湿生植物

CUCURBITACEAE ウリ目

CUCURBITACEAE ウリ科

Actinostemma lobatum Maxim. ゴキヅル 湿生植物

MYRTIFLORAE フトモモ目

LYTHRACEAE ミソハギ科

Ammannia coccinea Rottb. ホソバヒメミソハギ 帰化植物、アメリカ大陸原産

Rotala indica Koehne キカシグサ 湿生植物、史前帰化植物

Rotala mexicana Cham. et Schtdl. ミズマツバ 湿生植物

ONAGRACEAE アカバナ科

Ludwigia greatrexi Hara ウスゲチョウジタデ 湿生植物

HALORAGACEAE アリノトウグサ科

Myriophyllum brasiliense Camb. オオフサモ 水生植物、帰化植物、ブラジル原産

UMBELLIFLORAE セリ目

UMBELLIFERAE セリ科

Daucus carota Linn. *sativus* Hoffm. ニンジン 逸出

Apium leptophyllum F. Muell. マツバゼリ 帰化植物、熱帯アメリカ原産

Hydrocotyle maritima Honda ノチドメ

Hydrocotyle sibthorpioides Lam. チドメグサ 史前帰化植物

Oenanthe javanica DC. セリ 湿生植物

Torilis scabra DC. オヤブジラミ

GENTIANALES リンドウ目

RUBIACEAE アカネ科

Galium spurium Linn. f. *strigosum* Kitag. ヤエムグラ 史前帰化植物

Galium tridum Linn.

var. *brepedunculatum* Regel. ホソバノヨツバムグラ 湿生植物 史前帰化植物

Paederia scandens Merrill var. *mairei* Hara ヘクソカズラ

TUBIFLORAE シソ目

CONVOLVULACEAE ヒルガオ科

Calystegia japonica Choisy ヒルガオ

Ipomoea lacunosa Linn. マメアサガオ 帰化植物、北アメリカ原産

Ipomoea nil Roth アサガオ 帰化植物、ヒマラヤ地方原産

VERBENACEAE クマツヅラ科

Clerodendron trichotomum Thunb. クサギ

Verbana officinalis Linn. クマツヅラ

LABIATAE シソ科

Clinopodium gracile O. Kuntze トウバナ

Lamium amplexicaule Linn. ホトケノザ 史前帰化植物

Mosla dianthera Maxim. ヒメジソ

Salvia plebeia R. Br. ミゾコウジュ 湿生植物

SOLANACEAE ナス科

Solanum nigrum Linn. イヌホオズキ 帰化植物、世界の熱帯から暖帯に広く分布

SCROPHULARIACEAE ゴマノハグサ科

Linnophila sessiliflora Bl. キクモ 湿生植物、史前帰化植物

Vandellia anagallis Yamazaki

var. *verbenaefolia* Yamazaki スズメノトウガラシ 史前帰化植物

Lindernia procumbens Borbas アゼナ 湿生植物、史前帰化植物

Mazus pumilus v. Steens トキワハゼ

Veronica arvensis Linn. タチイヌノフグリ

帰化植物、ヨーロッパ、アジア大陸からアメリカ原産。

Veronica persica Poir オオイヌノフグリ 帰化植物、ヨーロッパ～西アジア原産

ACANTHACEAE キツネノマゴ科

Hygrophila lancea Miq. オギノツメ 湿生植物

PLANTAGINALES オオバコ目

PLANTAGINACEAE オオバコ科

Plantago asiatica Linn. オオバコ 史前帰化植物

CAMPANULALES キキョウ目

CAMPANULACEAE キキョウ科

Lobelia chinensis Lour. アゼムシロ 湿生植物

COMPOSITAE キク科

Artemisia capillaris Thunb. カワラヨモギ

Artemisia princeps Pampan. ヨモギ 史前帰化植物

Aster sublatus Michx.

var. *sandeicensis* A. G. Jones ヒロハハウキギク 帰化植物、北アメリカ原産

Bidens frondosa Linn. アメリカセンダングサ 帰化植物、北アメリカ原産

Bidens pilosa Linn. コセンダングサ 帰化植物、北アメリカ原産

Cosmos bipinnatus Cav. コスモス 帰化植物、メキシコ原産

Eclipta prostrata Linn. タカサブロウ 湿生植物、史前帰化植物

Erigeron sumatrensis Retz. オオアレチノギク 帰化植物、南アメリカ原産

Erigeron annuus Pers. ヒメジョオン 帰化植物、ヨーロッパ、北アメリカ原産

Erigeron bonariensis Linn. アレチノギク 帰化植物、南アメリカ原産

Erigeron canadensis Linn. ヒメムカシヨモギ 帰化植物、北アメリカ原産

Gazania hybrida Hort. ガザニアソウ 逸出植物

Ixeris debilis A. Gray オオジシバリ

Ixeris dentata Nakai ニガナ

Kalimeris yomena Kitam. ヨメナ

Lactuca indica Linn. var. *laciniata* Hara アキノノゲシ 史前帰化植物

Lactuca indica L. f. *indivisa* Hara ホソバアキノノゲシ 史前帰化植物

Rudbeckia hirta Linn. マツカサギク 逸出植物

Solidago altissima Linn. セイタカアワダチソウ 帰化植物、北アメリカ原産

Sonchus asper Hill オニノゲシ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Sonchus oleraceus Linn. ノゲシ 史前帰化植物

Taraxacum longeappendiculatum Nakai ヒロハタンポポ

Taraxacum officinale Weber セイヨウタンポポ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Youngia japonica DC. オニタビラコ

Xanthium canadense Mill. オオオナモミ 帰化植物、北アメリカ原産

HELOBIAE イバラモ目

ALISMATACEAE オモダカ科

Alisma canaliculatum A. Br. et Bouche ヘラオモダカ 水生植物

Sagittaria trifolia Linn. var. *caerulea* Hort. クワイ 水生植物、逸出食物、中国原産

HYDROCHARITACEAE ドチカガミ科

Egeria densa St. John オオカナダモ 水生植物、帰化植物、アルゼンチン原産

POTAMOGETONACEAE ヒルムシロ科

Potamogeton crispus Linn. エビモ 水生植物

Potamogeton berchtoldii Fieber イトモ 水生植物

NAJADACEAE イバラモ科

Najas graminea Delile ホッスモ 水生植物

LILIIFLORAE ユリ目

LILIACEAE ユリ科

Allium grayi Regel ノビル

Allium tuberosum Rottl. ニラ

AMARYLLIDACEAE ヒガンバナ科

Lycoris radiata Herb. ヒガンバナ 史前帰化植物、中国原産

Zephyranthes candida Herb. タマスダレ 逸出植物

DIOSCOREACEAE ヤマノイモ科

Dioscorea japonica Thunb. ヤマノイモ

DIOSCOREACEAE ミズアオイ科

Monochoria korsakowii Regel et Maack ミズアオイ 水生植物

Monochoria vaginalis Presl var. *plantaginea* Solms-Laub. コナギ 水生植物

Heteranthera peduncularis Benth. ヒメイホテイソウ

水生植物、帰化植物、北アメリカ、メキシコ原産

IRIDACEAE アヤメ科

Sisyrinchium laxum Otto オオニワゼキショウ 帰化植物、北アメリカ原産

JUNCALES イグサ目

JUNCACEAE イグサ科

Juncus leschenaultii Gay コウガイゼキショウ 水生植物、史前帰化植物

Juncus setchuensis Buchen var. *effusoides* Buchen. ホソイ 水生植物

COMMELINALES ツユクサ目

COMMELINACEAE ツユクサ科

Commelina communis Linn. ツユクサ 史前帰化植物

Aneilema keisak Hassk. イボクサ 水生植物、史前帰化植物

GRAMINALES イネ目

GRAMINEAE イネ科

Agropyron kamoji Ohwi カモジグサ 史前帰化植物

Alopecurus aequalis Sobol. スズメノテッポウ 史前帰化植物

Andropogon virginicus Linn. メリケンカルカヤ 帰化植物、北アメリカ原産

Arundinella hirta C. Tanaka トダシバ

Bromus catharticus Vahl イヌムギ 帰化植物、南アメリカ原産

Coix lacryma-jobi Linn. ジュズダマ 湿生植物、帰化植物、熱帯アジア原産

Cynodon dactylon Pers. ギョウギシバ 史前帰化植物

Digitaria adscendens Henrard メヒシバ 史前帰化植物

Digitaria violascens Link アキメヒシバ 史前帰化植物

Echinochloa crus-galli Beauv. イヌビエ 史前帰化植物

Echinochloa crus-galli Beauv. var. *caudata* Kitagawa ケイヌビエ 史前帰化植物

Echinochloa crus-galli Beauv. var. *oryzicola* Ohwi タイヌビエ 史前帰化植物

Eleusine indica Gaertn. オヒシバ 史前帰化植物

Eragrostis curvula Nees シナダレスズメガヤ 帰化植物、南アフリカ原産

Eragrostis ferruginea Beauv. カゼクサ 史前帰化植物

Eragrostis multicaulis Steud. ニワホコリ 史前帰化植物

Festuca arundinacea Schreb. オニウシノケグサ 帰化植物、ヨーロッパ原産

Imperata cylindrica Beauv. var. *koenigii* Durand et Schinz チガヤ 史前帰化植物

Isachne globosa O. Kuntze チゴザサ 湿生植物

Leersia japonica Makino アシカキ 水生植物

Lolium multiflorum Lam. ネズミムギ 帰化植物、ヨーロッパ～アジア大陸原産

Miscanthus sacchariflorus Benth. オギ 湿生植物

Miscanthus sinensis Anderss. ススキ

Panicum bisulcatum Thunb. ヌカキビ

Panicum dichotomiflorum Michx. オオクサキビ 帰化植物、北アメリカ原産

Paspalum dilatatum Poir. シマスズメノヒエ 帰化植物、アメリカ原産

Paspalum distichum Linn. キシュウスズメノヒエ

湿生植物、帰化植物、熱帯アジア～北アメリカ・中部アメリカ原産

Paspalum distichum Linn.

var. *indutum* Shinnars チクゴスズメノヒエ 水生植物、帰化植物、北アメリカ原産

Pennisetum alopecuroides Spreng. チカラシバ
Phalaris arundinacea Linn. クサヨシ 湿生植物
Phragmites australis Trin. ヨシ 水生植物
Phragmites karka Trin. セイタカヨシ 水生植物
Pleioblastus simonii Nakai メダケ
Poa annua Linn. スズメノカタビラ 史前帰化植物
Setaria faberi Herrm. アキノエノコログサ
Setaria pallide-fusca Stapf et C. E. Hubb. コツブキンエノコロ
Setaria glauca Beauv. キンエノコロ 史前帰化植物
Setaria viridis Beauv. エノコログサ 史前帰化植物
Sporobolus fertilis W. D. Clayton ネズミノオ 史前帰化植物
Zizania latifolia Turcz. マコモ 水生植物
Zoysia japonica Steud. シバ

SPATHIFLORAE サトイモ目

ARACEAE サトイモ科

Pistia stratiotes Linn. ボタンウキクサ 栽培、熱帯原産
Acorus calamus Linn. var. *angustatus* Bess. ショウブ 水生植物

PANDANALES タコノキ目

SPARGANIACEAE ミクリ科

Sparganium erectum Linn. ミクリ 水生植物

TYPHACEAE ガマ科

Typha angustata Bory et Chauberd ヒメガマ 水生植物
Typha orientalis Presl コガマ 水生植物

CYPERALES カヤツリグサ目

CYPERACEAE カヤツリグサ科

Carex leucochlora Bunge アオスゲ 史前帰化植物
Carex dimorpholepis Steud. アゼナルコ 湿生植物
Carex dispalata Boott カサスゲ 水生植物
Carex ischnostachya Steud. ジュズスゲ
Carex thunbergii Steud. アゼスゲ 湿生植物
Cyperus brevifolius Hassk. アイダクグ
Cyperus brevifolius Hassk. var. *leiolepis* T. Koyama ヒメクグ
Cyperus compressus Linn. クグガヤツリ 湿生植物 史前帰化植物
Cyperus difformis タマガヤツリ 湿生植物 史前帰化植物

Cyperus eragrostis Lam. メリケンガヤツリ 帰化植物、熱帯アメリカ原産
Cyperus esculentus Linn. ショクヨウガヤツリ 帰化植物
Cyperus flaccidus R. Br. ヒナガヤツリ 湿生植物
Cyperus flavidus Retz. アゼガヤツリ 湿生植物
Cyperus iria Linn. コゴメガヤツリ 史前帰化植物
Cyperus polystachyos Rottb. イガガヤツリ 帰化植物、熱帯～亜熱帯に広分布
Cyperus sanguinolentus Vahl カワラスガナ 湿生植物、史前帰化植物
Cyperus serotinus Rottb. ミズガヤツリ 水生植物、史前帰化植物
Eleocharis congesta D. Don var. *japonica* T. Koyama ハリイ 湿生植物
Eleocharis yokoscensis Tang et Wang マツバイ 湿生植物、史前帰化植物
Fimbristylis dichotoma Vahl var. *annua* T. Koyama テンツキ 湿生植物、史前帰化植物
Fimbristylis miliacea Vahl ヒデリコ 湿生植物、史前帰化植物
Scirpus juncooides Roxb. var. *ohwianus* T. Koyama イヌホタルイ 湿生植物
Scirpus tabernaemontani Gmel. フトイ 水生植物
Scirpus triangulatus Roxb. カンガレイ 水生植物
Scirpus triqueter Linn. サンカクイ 水生植物
Scirpus wallichii Nees タイワンヤマイ 湿生植物

CHARALES シャジクモ目

CHARACEAE シャジクモ科

Chara braunii Gmel. シャジクモ 水生植物

参考文献

- 前川文夫 1998 日本の植物と自然 八坂書房
太刀掛優 1998 帰化植物便覧 比婆科学教育振興会

昆虫類目録

静岡昆虫同好会

代表 高橋 真弓氏

LEPIDOPTERA
Papilionidae

チョウ目
アゲハチョウ科

<i>Atrophaneura alcinous</i>	ジャコウアゲハ
<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	アオスジアゲハ
<i>Papilio xuthus</i>	アゲハ
<i>P. machaon hippocrates</i>	キアゲハ
<i>P. protenor demetrius</i>	クロアゲハ
<i>P. helenus nicconicolens</i>	モンキアゲハ
<i>P. bianor dehaani</i>	カラスアゲハ

Pieridae

シロチョウ科

<i>Colias erate poliographus</i>	モンキチョウ
<i>Eurema hecabe hecabe</i>	キチョウ
<i>Anthocharis scolymus</i>	ツマキチョウ
<i>Pieris rapae crucivora</i>	モンシロチョウ
<i>P. melete melete</i>	スジグロシロチョウ

Lycaenidae

シジミチョウ科

<i>Lycaena phlaeas daimio</i>	ベニシジミ
<i>Lampides boeticus</i>	ウラナミシジミ
<i>Everes argiades helotia</i>	ツバメシジミ
<i>Celastrina ladon ladonides</i>	ルリシジミ
<i>Pseudozizeeria maha argia</i>	ヤマトシジミ
<i>Curetis acuta paracuta</i>	ウラギンシジミ

Danaidae

マダラチョウ科

<i>Parantica sita nipponica</i>	アサギマダラ
---------------------------------	--------

Libytheidae

テングチョウ科

<i>Libythea celtis celtoides</i>	テングチョウ
----------------------------------	--------

Nymphalidae

タテハチョウ科

<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	ツマグロヒョウモン
-------------------------------------	-----------

<i>Kaniska canace no-japonicum</i>	ルリタテハ
<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	キタテハ
<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>	ヒオドシチョウ
<i>Vanessa indica indica</i>	アカタテハ
<i>Cynthia cardui</i>	ヒメアカタテハ
<i>Ladoga glorifica</i>	アサマイチモンジ
<i>Neptis sappho intermedia</i>	コムスジ
<i>Apatura metis substitata</i>	コムラサキ
<i>Hestima japonica japonica</i>	ゴマダラチョウ

S a t y r i d a e

ジャノメチョウ科

<i>Ypthima argus argus</i>	ヒメウラナミジャノメ
<i>Mycalesis gotama fulginia</i>	ヒメジャノメ
<i>Neope goschkevitschii</i>	サトキマダラヒカゲ
<i>Melanitis phedima oitensis</i>	クロコノマチョウ

H e s p e r i i d a e

セセリチョウ科

<i>Potanthus flavum</i>	キマダラセセリ
<i>Pelopidas mathias</i>	チャバネセセリ
<i>Parnara guttata guttata</i>	イチモンジセセリ

C t e n u c h i d a e

カノコガ科

<i>Amata germana</i>	キハダカノコ
<i>A. fortunei</i>	カノコガ

L i m a c o d i d a e

イラガ科

<i>Monema flavescens</i>	イラガ
--------------------------	-----

S p h i n g i d a e

スズメガ科

<i>Cephonodes hylas</i>	オオスカシバ
<i>Macroglossum pyrhosticta</i>	ホシホウジャク

P s y c i d a e

ミノガ科

<i>Eumata japonica</i>	オオミノガ
COLEOPTERA	コウチュウ目
Lucanidae	クワガタムシ科
<i>Serrognathus Platymelus</i>	ヒラタクワガタ
<i>Macrodorcas rectus</i>	コクワガタ
<i>Prosopocoilus inclinatus</i>	ノコギリクワガタ
Scarabaeidae	コガネムシ科
<i>Allomyrina dichotoma</i>	カブトムシ
<i>Mimela splendens</i>	コガネムシ
<i>Anomala cuprea</i>	ドウガネブイブイ
<i>Popillia japonica</i>	マメコガネ
<i>Holotrichia kiotonensis</i>	クロコガネ
<i>Rhomborrhina japonica</i>	カナブン
<i>Oxycetonia jucunda</i>	コアオハナムグリ
<i>Protaetia orientalis</i>	シロテンハナムグリ
Lampyridae	ホタル科
<i>Luciola cruciata</i>	ゲンジボタル
Buprestidae	タマムシ科
<i>Chrysochroa fulgidissima</i>	ヤマトタマムシ
Coccinellidae	テントウムシ科
<i>Harmonia axyridis</i>	ナミテントウ
<i>Coccinella septempunctata</i>	ナナホシテントウ
Cerambycidae	カミキリムシ科
<i>Anoplophora malasiaca</i>	ゴマダラカミキリ
<i>Paraglenea fortunei</i>	ラミーカミキリ
Curculionidae	ゾウムシ科

Lixus actipennis
Sipalinus gigas

ハスジカツオゾウムシ
オオゾウムシ

ODONATA

トンボ目

Coenagrionidae

イトトンボ科

Ceriagrion melanurum
Ischnura asiatica
I. senegalensis
Cercion calamorum
C. hieroglyphicum

キイトトンボ
アジアイトトンボ
アオモンイトトンボ
クロイトトンボ
セスジイトトンボ

Calopterygidae

カワトンボ科

Calopteryx atrata
C. cornelia
Mnais pruinosa pruinosa

ハグロトンボ
ミヤマカワトンボ
ニシカワトンボ

Gomphidae

サナエトンボ科

Ictinogomphus clavatus

ウチワヤンマ

Cordulegastriidae

オニヤンマ科

Anotogaster sieboldii

オニヤンマ

Aeshnidae

ヤンマ科

Planaeschna milnei
Anaciaeschna martini
Anax guttatus
A. parthenope
Gynacantha japonica

ミルンヤンマ
マルタンヤンマ
オオギンヤンマ
ギンヤンマ
カトリヤンマ

Corduliidae

エゾトンボ科

Ephthalma elegans

オオヤマトンボ

Libellulidae

トンボ科

<i>Lyriothemis pachygastra</i>	ハラビロトンボ
<i>Orthetrum albistylum</i>	シオカラトンボ
<i>O. triangulare</i>	オオシオカラトンボ
<i>Crocothemis servilia</i>	ショウジョウトンボ
<i>Deilelia phaon</i>	コフキトンボ
<i>Sympetrum pedemontanum</i>	ミヤマアカネ
<i>S. darwinianum</i>	ナツアカネ
<i>S. frequens</i>	アキアカネ
<i>Sympetrum kunckeli</i>	マイコアカネ
<i>S. eroticum</i>	マユタテアカネ
<i>S. risi</i>	リスアカネ
<i>S. infuscatum</i>	ノシメトンボ
<i>S. baccha</i>	コノシメトンボ
<i>S. croceolum</i>	キトンボ
<i>S. speciosum</i>	ネキトンボ
<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	チョウトンボ
<i>Pseudothemis zonata</i>	コシアキトンボ
<i>Pantara flavescens</i>	ウスバキトンボ

HEMIPTERA

ヨコバイ目

Cicadidae

セミ科

<i>Platypleura kaempferi</i>	ニイニイゼミ
<i>Gratopsaltria nigrofuscata</i>	アブラゼミ
<i>Cryptotympana facialis</i>	クマゼミ
<i>Tanna japonensis</i>	ヒグラシ
<i>Oncotympana maculaticollis</i>	ミンミンゼミ
<i>Meimuna opalifera</i>	ツクツクボウシ

Ricaniidae

ハゴロモ科

<i>Orosanga japonicus</i>	ベッコウハゴロモ
---------------------------	----------

Flatidae

アオバハゴロモ科

<i>Geisha distinctissima</i>	アオバハゴロモ
------------------------------	---------

HETEROPTERA
Pentatomidae

カメムシ目
カメムシ科

Eurydema rugosa

ナガメ

Alydidae

ホソヘリカメムシ科

Riptortus clavatus

ホソヘリカメムシ

Leptocoris chinensis

クモヘリカメムシ

Gerridae

アメンボ科

Aguarius paludum

アメンボ

NEUROPTERA
Asclephidae

アミメカゲロウ目
ツノトンボ科

Hybris subjacens

ツノトンボ

引用文献

- 石田昇三ほか(1988)日本産トンボ幼虫・成虫検索図説, 140pp, 72pls, 103figs, 東海大学出版会, 東京
猪又敏男(1990)原色蝶類検索図鑑, 223pp. 北隆館, 東京
江間修司(1988)麻機遊水地(静岡市)のトンボ7種. 駿河の昆虫(144): 4161-4162
埼玉昆虫談話会(1998)埼玉県昆虫誌 I, 621pp; II, 405pp; III, 403pp.
佐藤卓也(1992)静岡平野のマルタンヤンマの幼虫. 駿河の昆虫(157): 4481
高橋真弓(1988)静岡市麻機遊水地でマルタンヤンマを採集. 駿河の昆虫(144): 4162

鳥 類 目 録



財団法人 日本野鳥の会 静岡支部

ORDER PODICIPEDIFORMES
Family Podicipedidae

カイツブリ目
カイツブリ科

Tachybaptus ruficollis

カイツブリ

Podiceps nigricollis

ハジロカイツブリ

Podiceps grisegena

アカエリカイツブリ

Podiceps cristatus

カンムリカイツブリ

ORDER PELECANIFORMES
Family Phalacrocoracidae

ペリカン目
ウ科

Phalacrocorax carbo

カワウ

ORDER CICONIIFORMES
Family Ardeidae

コウノトリ目
サギ科

Botaurus stellaris

サンカノゴイ

Ixobrychus sinensis

ヨシゴイ

Ixobrychus eurhythmus

オオヨシゴイ

Nycticorax nycticorax

ゴイサギ

Butorides striatus

ササゴイ

Ardeola bacchus

アカガシラサギ

Bubulcus ibis

アマサギ

Egretta alba

ダイサギ

E. a. alba

ダイサギ

E. a. modesta

チュウダイサギ

Egretta intermedia

チュウサギ

Egretta garzetta

コサギ

Ardea cinerea

アオサギ

Ardea purpurea

ムラサキサギ

Family Ciconiidae

コウノトリ科

Ciconia boyciana

コウノトリ

ORDER ANSERIFORMES
Family Anatidae

カモ目
カモ科

Anser albifrons

マガン

Cygnus columbianus

コハクチョウ

Aix galericulata

オシドリ

Anas platyrhynchos

マガモ

Anas poecilorhyncha

カルガモ

<i>Anas crecca</i>	コガモ
<i>A. c. crecca</i>	コガモ
<i>A. C. carolinensis</i>	アメリカコガモ
<i>Anas formosa</i>	トモエガモ
<i>Anas falcata</i>	ヨシガモ
<i>Anas strepera</i>	オカヨシガモ
<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ
<i>Anas americana</i>	アメリカヒドリ
<i>Anas acuta</i>	オナガガモ
<i>Anas querquedula</i>	シマアジ
<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ
<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ
<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ
<i>Aythya marila</i>	スズガモ
<i>Bucephala clangula</i>	ホオジロガモ
<i>Mergus albellus</i>	ミコアイサ
<i>Mergus merganser</i>	カワアイサ

ORDER FALCONIFORMES
Family Accipitridae

タカ目
タカ科

<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ
<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ
<i>Milvus migrans</i>	トビ
<i>Haliaeetus pelagicus</i>	オオワシ
<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ
<i>Accipiter gularis</i>	ツミ
<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ
<i>Buteo buteo</i>	ノスリ
<i>Butastur indicus</i>	サシバ
<i>Spizaetus nipalensis</i>	クマタカ
<i>Aquila chrysaetos</i>	イヌワシ
<i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウヒ
<i>Circus spilonotus</i>	チュウヒ

Family Falconidae

ハヤブサ科

<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ
<i>Falco subbuteo</i>	チゴハヤブサ
<i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ
<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ

ORDER GALLIFORMES

キジ目

Family Phasianidae

キジ科

Coturnix japonica
Phasianus colchicus

ウズラ
キジ

ORDER GRUIFORMES

ツル目

Family Rallidae

クイナ科

Rallus aquaticus
Porzana pusilla
Porzana fusca
Coturnicops noveboracensis
Amaurornis phoenicurus
Gallinula chloropus
Gallicrex cinerea
Fulica atra

クイナ
ヒメクイナ
ヒクイナ
シマクイナ
シロハラクイナ
バン
ツルクイナ
オオバン

ORDER CHARADRIIFORMES

チドリ目

Family Jacanidae

レンカク科

Hydrophasianus chirurgus

レンカク

Family Rostratulidae

タマシギ科

Rostratula benghalensis

タマシギ

Family Charadriidae

チドリ科

Charadrius hiaticula
Charadrius dubius
Charadrius placidus
Charadrius alexandrinus
Charadrius mongolus
Pluvialis fulva
Vanellus cinereus
Vanellus vanellus

ハジロコチドリ
コチドリ
イカルチドリ
シロチドリ
メダイチドリ
ムナグロ
ケリ
タゲリ

Family Scolopacidae

シギ科

Arenaria interpres
Calidris ruficollis
Calidris subminuta
Calidris temminckii

キョウジョシギ
トウネン
ヒバリシギ
オジロトウネン

<i>Calidris melanotos</i>	アメリカウズラシギ
<i>Calidris acuminata</i>	ウズラシギ
<i>Calidris alpina</i>	ハマシギ
<i>Calidris ferruginea</i>	サルハマシギ
<i>Philomachus pugnax</i>	エリマキシギ
<i>Tringa erythropus</i>	ツルシギ
<i>Tringa stagnatilis</i>	コアオアシシギ
<i>Tringa nebularia</i>	アオアシシギ
<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ
<i>Tringa glareola</i>	タカブシギ
<i>Heteroscelus brevipes</i>	キアシシギ
<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ
<i>Xenus cinereus</i>	ソリハシシギ
<i>Limosa limoa</i>	オグロシギ
<i>Numenius arquata</i>	ダイシャクシギ
<i>Numenius phaeopus</i>	チュウシャクシギ
<i>Numenius minutus</i>	コシャクシギ
<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ
<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ
<i>Gallinago megala</i>	チュウジシギ
<i>Gallinago hardwickii</i>	オオジシギ

Family Recurvirostridae セイタカシギ科

<i>Himantopus himantopus</i>	セイタカシギ
------------------------------	--------

Family Phalaropodidae ヒレアシシギ科

<i>Phalaropus lobatus</i>	アカエリヒレアシシギ
---------------------------	------------

Family Glareolidae ツバメチドリ科

<i>Glareola maldivarum</i>	ツバメチドリ
----------------------------	--------

Family Laridae カモメ科

<i>Larus ridibundus</i>	ユリカモメ
<i>Chlidonias leucopterus</i>	ハジロクロハラアジサシ
<i>Chlidonias hybridus</i>	クロハラアジサシ
<i>Sterna hirundo</i>	アジサシ
<i>Sterna albifrons</i>	コアジサシ

ORDER COLUMBIFORMES

ハト目

Family Columbidae

ハト科

Streptopelia orientalis

キジバト

Sphenurus sieboldii

アオバト

ORDER CUCULIFORMES

カッコウ目

Family Cuculidae

カッコウ科

Cuculus fugax

ジュウイチ

Cuculus canorus

カッコウ

Cuculus saturatus

ツツドリ

Cuculus poliocephalus

ホトトギス

ORDER STRIGIFORMES

フクロウ目

Family Strigidae

フクロウ科

Asio otus

トラフズク

Asio flammeus

コミミズク

Otus lempiji

オオコノハズク

Ninox scutulata

アオバズク

Strix uralensis

フクロウ

ORDER CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ目

Family Caprimulgidae

ヨタカ科

Caprimulgus indicus

ヨタカ

ORDER APODIFORMES

アマツバメ目

Family Apodidae

アマツバメ科

Hirundapus caudacutus

ハリオアマツバメ

Apus affinis

ヒメアマツバメ

Apus pacificus

アマツバメ

ORDER CORACIIFORMES

ブッポウソウ目

Family Alcedinidae

カワセミ科

Ceryle lugubris

ヤマセミ

Halcyon coromanda

アカショウビン

Alcedo atthis

カワセミ

Family Upupidae

ヤツガシラ科

Upupa epops

ヤツガシラ

ORDER PICIFORMES

キツツキ目

Family Picidae

キツツキ科

Jynx torquilla

アリスイ

Picus avokera

アオゲラ

Dendrocopos major

アカゲラ

Dendrocopos kizuki

コゲラ

ORDER PASSERIFORMES

スズメ目

Family Alaudidae

ヒバリ科

Calandrella cinerea

ヒメコウテンシ

Alauda arvensis

ヒバリ

Family Hirundinidae

ツバメ科

Riparia riparia

ショウドウツバメ

Hirundo rustica

ツバメ

H. r. saturata

アカハラツバメ

H. r. gutturalis

ツバメ

Hirundo daurica

コシアカツバメ

Delichon urbica

イワツバメ

Family Motacillidae

セキレイ科

Motacilla flava

ツメナガセキレイ

M. f. taivana

ツメナガセキレイ

M. f. macronyx

キタツメナガセキレイ

Motacilla cinerea

キセキレイ

Motacilla alba

ハクセキレイ

M. a. lugens

ハクセキレイ

M. a. leucopsis

ホオジロハクセキレイ

Motacilla grandis

セグロセキレイ

Anthus hodgsoni

ビンズイ

Anthus apinoletta

タヒバリ

Family Pycnonotidae

ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis

ヒヨドリ

Family Laniidae

モズ科

Lanius bucephalus

モズ

Lanius cristatus

アカモズ

F a m i l y B o m b y c i l l i d a e

レンジャク科

Bombycilla garrulus

キレンジャク

Bombycilla japonica

ヒレンジャク

F a m i l y T u r d i d a e

ツグミ科

Luscinia calliope

ノゴマ

Luscinia svecica

オガワコマドリ

Tarsiger cyanurus

ルリビタキ

Phoenicurus aureus

ジョウビタキ

Saxicola torquata

ノビタキ

Monticola solitarius

イソヒヨドリ

Zoothera dauma

トラツグミ

Turdus cardis

クロツグミ

Turdus chrysolaus

アカハラ

Turdus pallidus

シロハラ

Turdus naumanni

ツグミ

F a m i l y S y l v i i d a e

ウグイス科

Cettia diphone

ウグイス

Locustella ochotensis

シマセンニュウ

Acrocephalus bistrigiceps

コヨシキリ

Acrocephalus arundinaceus

オオヨシキリ

Phylloscopus borealis

メボソムシクイ

Phylloscopus coronatus

センダイムシクイ

Cisticola juncidis

セッカ

F a m i l y M u s c i c a p i d a e

ヒタキ科

Muscicapa dauurica

コサメビタキ

F a m i l y M o n a r c h i d a e

カササギヒタキ科

Terpsiphona atrocaudata

サンコウチョウ

F a m i l y A e g i t h a l i d a e

エナガ科

<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ
Family Remizidae	ツリスガラ科
<i>Remiz pendulus</i>	ツリスガラ
Family Paridae	シジュウカラ科
<i>Parus montanus</i>	コガラ
<i>Parus varius</i>	ヤマガラ
<i>Parus major</i>	シジュウカラ
Family Zosteropidae	メジロ科
<i>Zosterops japonica</i>	メジロ
Family Emberizidae	ホオジロ科
<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ
<i>Emberiza yessoensis</i>	コジュリン
<i>Emberiza fucata</i>	ホオアカ
<i>Emberiza pusilla</i>	コホオアカ
<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ
<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ
<i>Emberiza sulphurata</i>	ノジコ
<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ
<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ
<i>Emberiza schoeniclus</i>	オオジュリン
Family Fringillidae	アトリ科
<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ
<i>Carduelis sinica</i>	カワラヒワ
<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ
<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ
<i>Eophona migratoria</i>	コイカル
<i>Eophona personata</i>	イカル
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ
Family Ploceidae	ハタオリドリ科
<i>Passer rutilans</i>	ニュウナイスズメ
<i>Passer montanus</i>	スズメ

Family Sturnidae

ムクドリ科

Sturnus philippensis

コムクドリ

Sturnus sinensis

カラムクドリ

Sturnus cineraceus

ムクドリ

Family Corvidae

カラス科

Garrulus glandarius

カケス

Cyanopica cyana

オナガ

Corvus corone

ハシボソガラス

Corvus macrorhynchos

ハシブトガラス

外 来 種

ORDER ANSERIFORMES

カモ目

Family Anatidae

カモ科

Branta canadensis

カナダガン

Cygnus olor

コブハクチョウ

ORDER GALLIFORMES

キジ目

Family Phasianidae

キジ科

Bambusicola thoracica

コジュケイ

ORDER COLUMBIFORMES

ハト目

Family Columbidae

ハト科

Columba livia var. domestica

ドバト

ORDER PSITTACIFORMES

インコ目

Family Cacatuidae

オウム科

Nymphicus hollandicus

オカメインコ

Family Psittacidae

インコ科

Melopsittacus undulatus

セキセイインコ

Psittacula krameri

ホンセイインコ

P. K. manillensis

ワカケホンセイインコ

ORDER PASSERIFORMES
Family Timaliidae

スズメ目
チメドリ科

Leiothrix lutea

ソウシチョウ

Family Estrididae

カエデチョウ科

Amandava amandava

ベニスズメ

Lonchura malabarica

ギンバシ

Lonchura malacca

ギンバラ

L. m. malacca

ギンバラ

L. m. atricapilla

キンバラ

Lonchura maja

ヘキチョウ

Padda oryzivora

ブンチョウ

Family Ploceidae

ハタオリドリ科

Vidua macroura

テンニンチョウ

- 本目録の記載の順序および目名、科名、学名、標準和名、亜種名は日本産鳥類リスト（日本鳥学会誌第46巻第1号、1997）に従った。
- 2亜種以上記録のある種に関しては、学名の小種名まで記載した。例外として、1亜種のみ記録であるが亜種名が日本では知られているワカケホンセイインコは小種名まで記載した。
- 本目録を作成するにあたり、下記の方々の観察記録を参考にさせていただきました。

高橋成彰 加藤忠三 本間博彰 寺尾信行 野崎和子 堤富久男 石野佐栄子
山田雅啓 小原擴 杉本武 佐藤昌彦 三宅隆 片田大 新井真 榊原博
小池正明 飯塚久志 佐藤元一 大橋鋼一 大石貴士 三田祐三 大塚紘子
福与義憲 渡辺明夫 真木広造 野沢正行 久保洋一 増田章二 朝倉俊治
堀田昌伸 織田雅之 広瀬邦彦 ほか (順不同・敬称略)

-
- 本目録について追加事項およびご意見などございましたら下記までご連絡下さい。

目録編集責任者 伴野正志